

Atrust

Auto Setup ユーザーガイド

Version 1.00

Copyright 2014–2019 Atrust Computer Corp.

著作権表示

著作権 2014–2019 Atrust Computer Corp.無断複写・転載を禁じます。

このドキュメントには、著作権で保護されている専有情報が含まれています。Atrust Computer Corpの事前の書面による同意なしに、この文書の一部を複写、複製、または他の言語に翻訳することはできません。

免責事項

Atrust Computer Corp. (「Atrust」)は、本文書の内容または使用に関していかなる表明または保証も行わず、商品性または特定の目的への適合性の明示的または黙示的な保証を明確に否認します。Atrustは、本書に含まれる技術的または編集上の誤りまたは脱落について責任を負いません。本書の情報は予告なく変更される場合があります。

商標声明

Atrustは、Atrust Computer Corpの商標です。

ここに記載されているその他の製品名は、識別目的でのみ使用されており、それぞれの会社の商標または登録商標です。

1

Auto Setupの概要

1.1 Auto Setupとは

Auto Setupモードを使用すると、エンドポイントデバイスまたはユーザーは、起動時にネットワーク経由で事前設定された構成を取得し、目的のユーザー環境を自動的に入力できます。

その操作には、以下の可用性が必要です。

- » サポートされているエンドポイントデバイス
- » Auto Setupの環境とメカニズム
- » ネットワーク接続(プリセット構成を取得するために必要)
- » ターゲット仮想化サービス(実際のアプリケーションに必要)

1.2 サポートされているエンドポイントデバイス

x86ベース

- » t68L / t68LD
- » t180L
- » t220L
- » mt168L
- » mt180L
- » A180L

ARMベース

- » t60 / t62 / t63
- » t66 / t66DL
- » A66



注意

上記のリストはすべてではありません。新しく開発されたモデルが含まれる場合があります。

1.3 Auto Setup環境とメカニズム

このユーザーガイドの残りの部分では、エンドポイントデバイスのAuto Setup環境とメカニズムを作成する方法について説明します。

| 章 | タイトル | 説明 | ページ |
|---|--------------------|-----------------------------|-----|
| 2 | Auto Setup環境の作成 | Auto Setupのサーバー側コンポーネントの構成 | 7 |
| 3 | Auto Setupメカニズムの作成 | Auto Setupメカニズム用のINIファイルの生成 | 27 |

| 付録 | タイトル | 説明 | ページ |
|----|--------------------|--------------------------------|-----|
| A | Auto Setupのフローチャート | Auto Setupプロセスのフローチャート | 51 |
| B | シングルサインオンの例 | シングルサインオンの構成と使用例 | 53 |
| C | エンドポイントデバイスのリセット | エンドポイントデバイスを工場出荷時のデフォルトにリセットする | 57 |

内容

| | |
|--|----|
| Auto Setupの概要 | 3 |
| 1.1 Auto Setupとは | 3 |
| 1.2 サポートされているエンドポイントデバイス | 3 |
| 1.3 Auto Setup環境とメカニズム | 4 |
| Auto Setup環境の作成 | 7 |
| ステップ1: Web / FTPサーバーの構成 | 8 |
| ステップ2: 実験的なINIファイルをWeb / FTPサーバーに配置する | 15 |
| ステップ3: DHCPサーバーの構成または非DHCP環境用のクライアントの構成 | 16 |
| ステップ4: 実験的なINIファイルを使用して環境をテストする | 23 |
| ステップ5: オンラインINIファイルの作成 | 25 |
| Auto Setupメカニズムの作成 | 27 |
| 3.1 INIファイルの生成、表示、保存 | 27 |
| 3.2 ユーザー特権の構成 | 30 |
| 3.3 管理者モードの許可または禁止 | 32 |
| 3.4 Auto Setupでのロックと設定の保持 | 34 |
| 3.5 ユーザー認証とシングルサインオン | 36 |
| 3.6 ユーザー固有の構成の作成 | 40 |
| 3.7 カスタム壁紙を使用する | 41 |
| 3.8 ファームウェアの自動インストールと更新 | 43 |
| ステップ1: ファームウェアファイルをWeb / FTPサーバーに配置する | 43 |
| ステップ2: Webサーバーでのディレクトリ参照の有効化(Webサーバーのみ) | 46 |
| ステップ3: Auto Setupでのロックと設定の保持 | 47 |
| 3.9 証明書を自動的に取得する | 48 |
| ステップ 1: Web / FTPサーバーに証明書ファイルを置く | 48 |
| ステップ 2: Webサーバーでのディレクトリ参照の有効化(Webサーバーのみ) | 50 |
| 付録A.Auto Setupのフローチャート | 51 |
| 付録B.シングルサインオンの例 | 53 |
| 付録C.エンドポイントデバイスのリセット | 57 |

2

Auto Setup環境の作成

Auto Setupモードは、エンドポイントデバイスまたはユーザーが起動時にネットワーク経由で事前設定された設定を取得し、目的のユーザー環境に自動的に入るモードです。

その操作には、以下の可用性が必要です。

- » Auto Setup環境
- » Auto Setupがサポートされるエンドポイントデバイス
- » ネットワーク接続(プリセット構成を取得するために必要)
- » ターゲット仮想化サービス(実際のアプリケーションに必要)

この章の目的は、Auto Setupモードに必要な環境の設定を支援することです。次の手順は、必要な環境を構成する基本的な手順を示します。

ステップ1: Web / FTPサーバーの構成Web

ステップ2: 実験的なINIファイルをWeb / FTPサーバーに配置する

ステップ3: DHCPサーバーの構成または非DHCP環境用のクライアントの構成

ステップ4: 実験的なINIファイルを使用して環境をテストする

ステップ5: オンラインINIファイルの作成



注意

- » 多くのOSを使用して、Web、FTP、およびDHCPサーバーを実装できます。OS以下にリストされているものは、Auto Setup環境に適していることが確認されています。そして、試運転に推奨されます:

✧ Windows Server 2016

✧ Windows Server 2008 R2

✧ Windows Server 2012 R2

ステップ1: Web / FTPサーバーの構成

エンドポイントデバイスのWeb / FTPサーバーを構成して、プリセット設定を取得する必要があります。ネットワーク。以下の手順に従ってタスクを完了してください。

注意

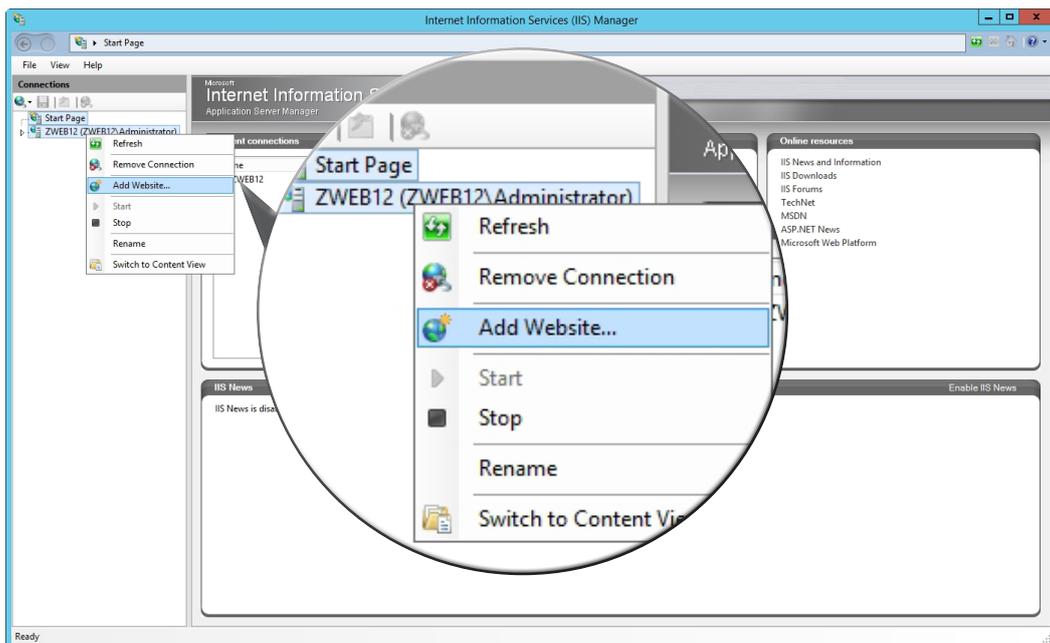
- » ここでの手順は、Windows Server 2012 R2(Datacenterエディション)で実装されたWebおよびFTPサーバーに基づいています。OSとエディションが異なるサーバーでは、手順が異なる場合があります。

注意

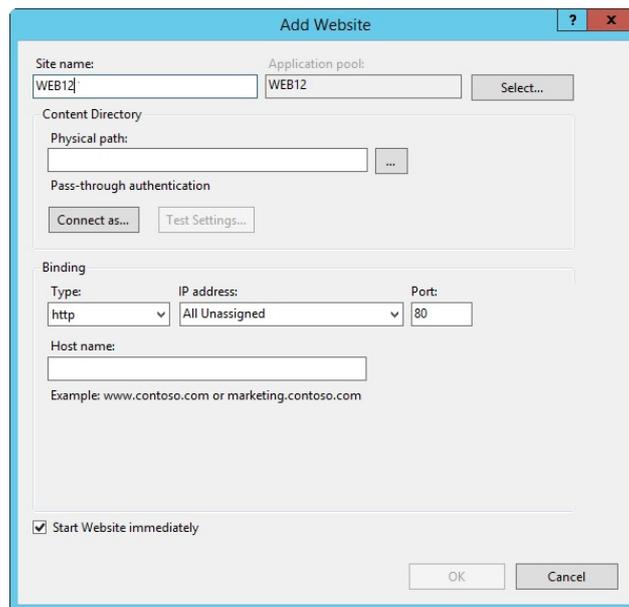
- » ファイアウォール設定をデフォルトのままにするか、WebサーバーまたはFTPサーバーを展開するときに自動的に構成されます。ファイアウォール設定を手動で変更すると、Auto Setupの通常の動作に影響する場合があります。Auto Setupの環境を実装するためにWindows以外のOSを使用する必要がある場合は、ファイアウォール設定を確認して、必要に応じて環境のトラブルシューティングを行ってください。

Webサーバーの構成

1. Webサーバーを展開します。
2. 管理者アカウントでサーバーにログインします。
3. [スタート]> [管理ツール]> [インターネットインフォメーションサービス(IIS)マネージャー]をクリックして、インターネットインフォメーションサービス(IIS)マネージャーを起動します。
4. [接続]ウィンドウで、ローカルホストを右クリックし、ポップアップメニューで[Webサイトの追加]を選択します。

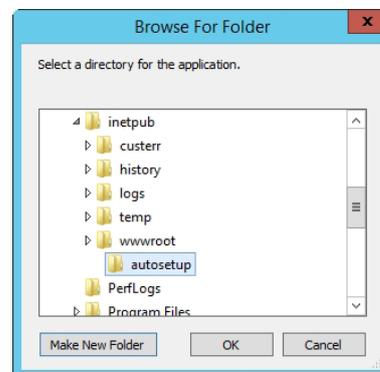
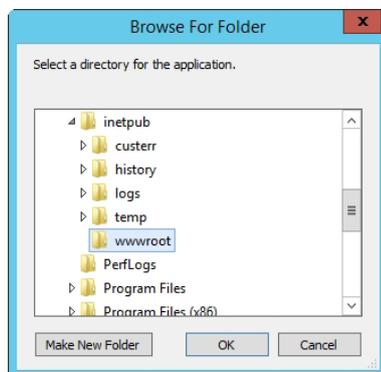


5. 開いたダイアログボックスで、目的のサイト名を入力します。

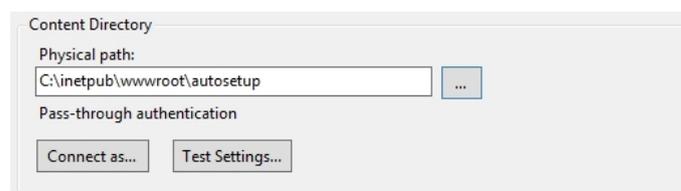


6. サイトコンテンツファイル(INIファイルなど)のパス/ディレクトリを指定します。

- (a) [コンテンツディレクトリ]セクションで、右側の[参照]ボタンをクリックして、後でアクセスするためにサイトコンテンツファイルを配置するパス/ディレクトリを見つけます。
- (b) [C:] > [inetpub] > [wwwroot]を選択し、[新しいフォルダーの作成]をクリックして、Auto Setupを作成します。パス/ディレクトリ。



(c) Auto Setupを選択し、[OK]をクリックして確認します。以下に示すように、パス/ディレクトリは自動的に入力されます(C:\inetpub \ wwwroot \ autoseup)。



7. [バインド]セクションで、ドロップダウンメニューをクリックして、ローカルホストのIPアドレスを選択します。

8. [OK]をクリックして、このWebサイトを追加します。
9. このWebサイトで使用されるファイル名拡張子のMIMEタイプを追加します。



注意

- » Webサーバーがコンテンツを正しく提供するには、使用されるMIMEを定義する必要がありますタイプ。詳細については、以下を参照してください。
[https://technet.microsoft.com/en-us/library/cc753281\(v=ws.10\).aspx](https://technet.microsoft.com/en-us/library/cc753281(v=ws.10).aspx)
[https://technet.microsoft.com/en-us/library/cc725608\(v=ws.10\).aspx](https://technet.microsoft.com/en-us/library/cc725608(v=ws.10).aspx)

- (a) [接続]ウィンドウで、ツリーで新しく作成されたWebサイトをクリックし、ダブルクリックします

中央ペインのMIMEタイプ 

- (b) [アクション]ウィンドウで[追加]をクリックして[MIMEタイプの追加]ダイアログボックスを開き、次に示すようにMIMEタイプを追加します(ファイル名拡張子:.*およびMIMEタイプ:application / octet-stream)。

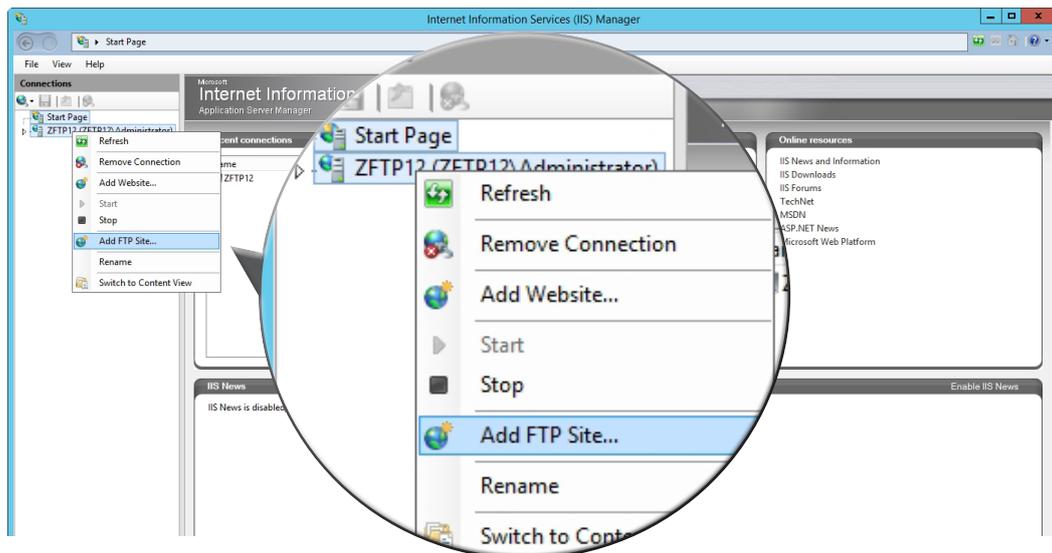
ファイル名拡張子:.*
MIMEタイプ:application / octet-stream

ファイル名拡張子:。
MIMEタイプ:application / octet-stream

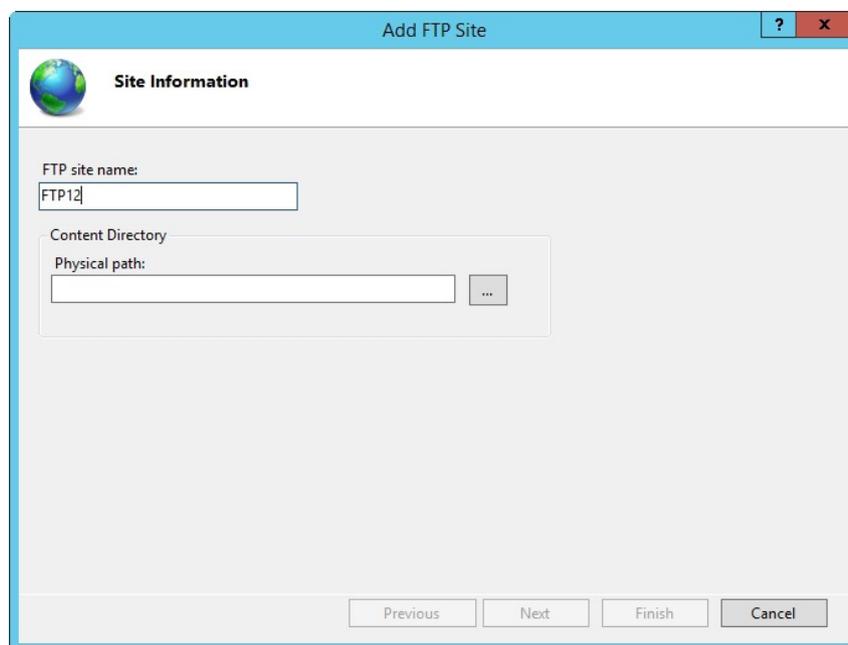
- (c) [OK]をクリックして確定します。

FTPサーバーの構成

1. FTPサーバーを展開します。
2. 管理者アカウントでサーバーにログインします。
3. [スタート]> [管理ツール]> [インターネットインフォメーションサービス(IIS)マネージャー]をクリックして、インターネットインフォメーションサービス(IIS)マネージャーを起動します。
4. [接続]ウィンドウで、ローカルホストを右クリックし、ポップアップメニューで[FTPサイトの追加]を選択します。

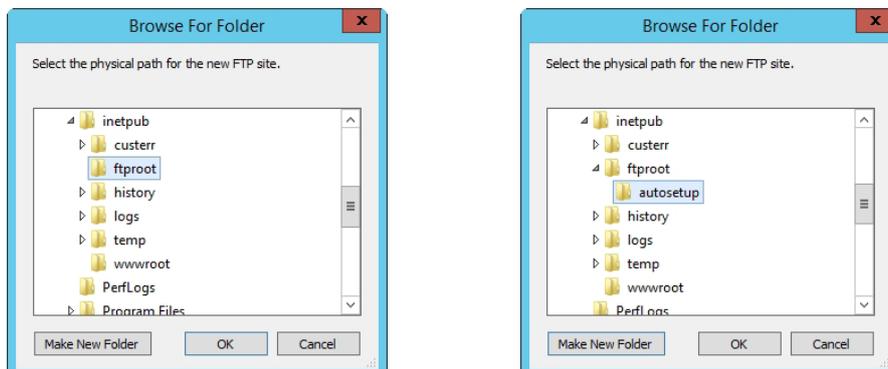


5. 開いたダイアログボックスで、目的のFTPサイト名を入力します。

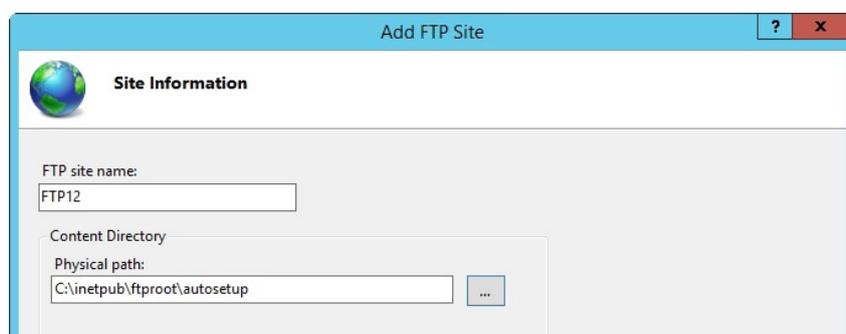


6. サイトコンテンツファイル (INIファイルなど)のパス/ディレクトリを指定します。
 - (a) [コンテンツディレクトリ]セクションで、右側の[参照]ボタンをクリックして、後でアクセスするためにサイトコンテンツファイルを配置するパス/ディレクトリを見つけます。

- (b) [C:]> [inetpub]> [ftproot]を選択し、[新しいフォルダーの作成]をクリックして、Auto Setupを作成します。パス/ディレクトリ。

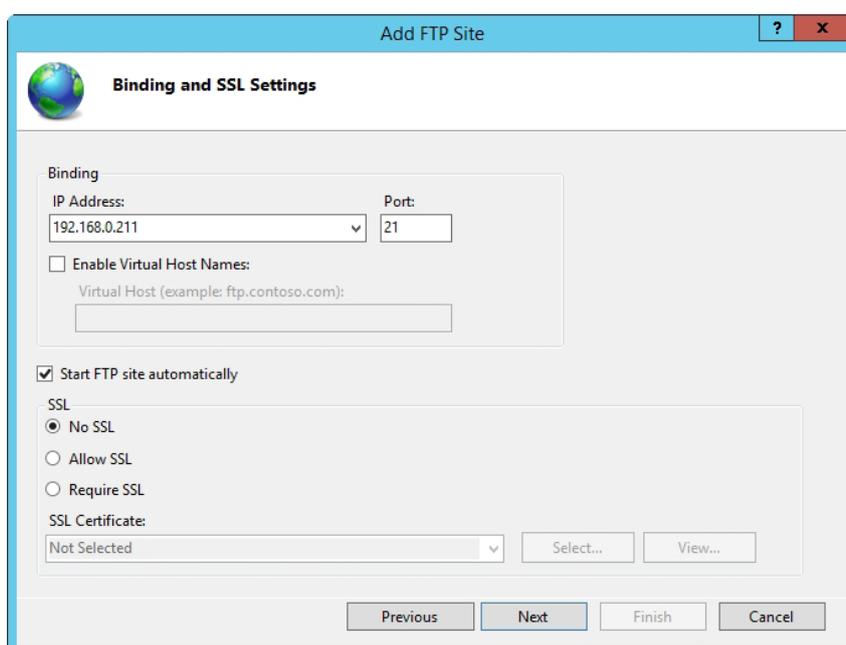


- (c) Auto Setupを選択し、[OK]をクリックして確認します。以下に示すように、パス/ディレクトリは自動的に入力されます(C:\inetpub\ftproot\autosetup)。



- (d) [次へ]をクリックして続行します。

7. [バインド]セクションで、ドロップダウンメニューをクリックしてローカルホストのIPアドレスを選択し、[SSLなし]をクリックして選択し、[次へ]をクリックして続行します。

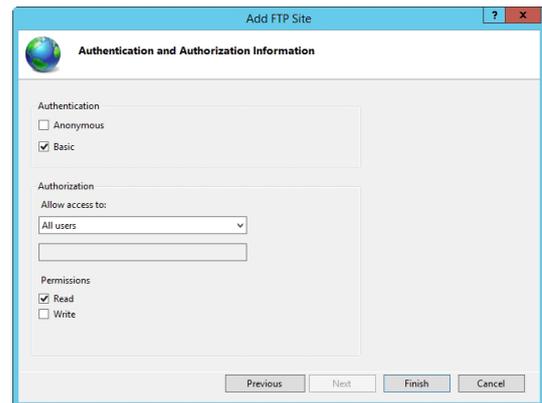
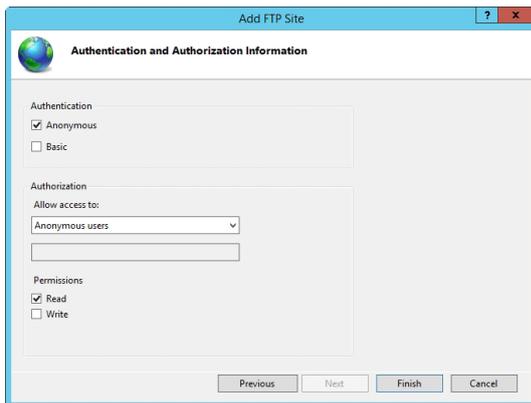




注意

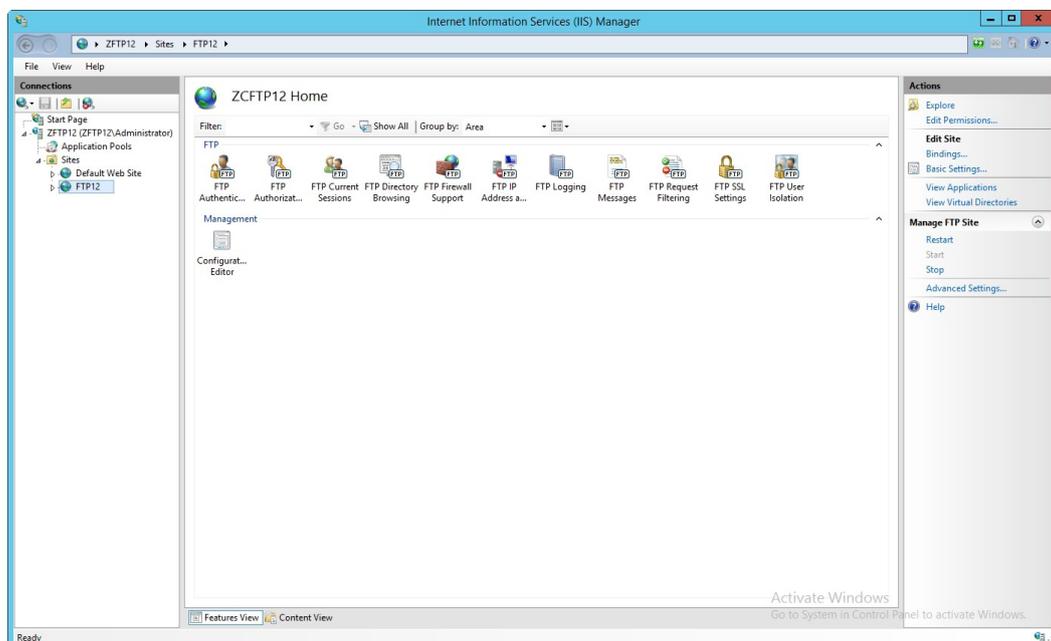
» FTPへのSSL接続は、Auto Setup環境ではサポートされていません。

8. [匿名]または[基本]をクリックしてチェックし、ドロップダウンメニューをクリックして[匿名ユーザー]または[すべてのユーザー]を選択し、[読み取り]をクリックしてチェックし、[完了]をクリックして適用します。



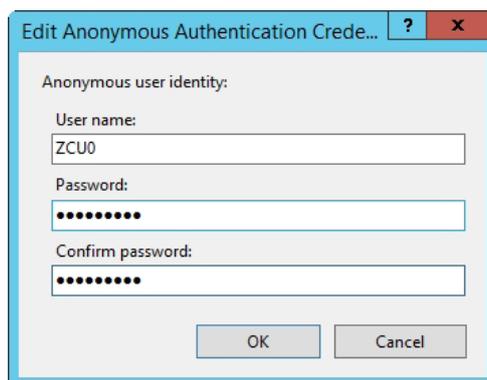
9. 前の手順で匿名ユーザーが選択されている場合、匿名ユーザーのユーザーID情報を提供します。
 (a) [接続]ウィンドウで新しく作成したFTPサイトをクリックして選択し、ダブルクリックします中央ペインの

FTP認証



- (b) [FTP認証]ウィンドウで、[匿名認証]をクリックし、[編集]をクリックします。操作ウィンドウ。

(c) 開いたウィンドウで、必要に応じてユーザー名とパスワードを入力し、[OK]をクリックして適用します。



Anonymous user identity:

User name:
ZCU0

Password:
●●●●●●

Confirm password:
●●●●●●

OK Cancel



ヒント

» ここで必要なデータのコントロールパネルを介して標準ユーザーアカウントを作成できます。

ステップ2:実験的なINIファイルをWeb / FTPサーバーに配置する

エンドポイントデバイスのWeb / FTPサーバーにINIファイルを配置して、事前設定を取得するには、次の手順を実行してください。



ヒント

- » 最初にAuto Setup環境をテストするために、この段階で実験的なINIファイルを配置することをお勧めします。

1. 管理者アカウントでWeb / FTPサーバーにログインします。
2. 実験的なINIファイルを生成するには、27ページの“3.1 INIファイルの生成、表示、保存 (P. 27)”を参照してください。



注意

- » Atrust Auto Setup Creatorを使用して、さまざまなタイプのINIファイルを生成、表示、保存できます。Atrust Auto Setup Creatorの使用の詳細については、27ページの“3.1 INIファイルの生成、表示、保存 (P. 27)”を参照してください。

3種類のINIファイル

エンドポイントデバイスまたはユーザーの構成を事前設定するために使用できるINIファイルには3つのタイプがあります。ファイル名、場所、それらの適用可能性、必要性、優先度の要件は、以下の表に記載されています。

| タイプ | ファイル名 | 適用性 |
|-------|--------------|---|
| グローバル | autocfg.ini | すべてのAuto Setup対応エンドポイントデバイス |
| MAC | xyyz.ini | 最後の6つの英数字MAC xyyzを持つ特定のエンドポイントデバイス |
| ユーザー | username.ini | Francis Crick.iniなど、エンドポイントデバイスへのログインに使用される特定のユーザーアカウント |



注意

- » エンドポイントデバイスに有線またはワイヤレスネットワークインターフェイスが使用されている場合でも、MACタイプのINIファイルは常にLANポートの最後の6文字の英数字MACアドレスを使用します。

| タイプ | ロケーション | 必要性と優先度 |
|-------|---|---|
| グローバル | Web サーバ: C:\inetpub\wwwroot\autosetup | グローバルは、Auto Setup環境に必要な要素です。 MACはグローバルよりも優先されます。 ユーザーはMACよりも優先されます。 |
| | FTP サーバ: C:\inetpub\ftproot\autosetup | |
| MAC | Web サーバ: C:\inetpub\wwwroot\autosetup\macini | |
| | FTP サーバ: C:\inetpub\ftproot\autosetup\macini | |
| ユーザー | Web サーバ: C:\inetpub\wwwroot\autosetup\userini | |
| | FTP サーバ: C:\inetpub\ftproot\autosetup\userini | |

3. このINIファイルを指定されたパス/ディレクトリに配置します。



注意

- » INIファイルが配置されているWeb / FTPサーバーは、Auto Setup環境のコアコンポーネントです。Auto Setupのスムーズな操作を維持するために、適切なセキュリティおよびバックアップメカニズムを手配してください。

ステップ3: DHCPサーバーの構成または非DHCP環境用のクライアントの構成

DHCPサーバーの構成

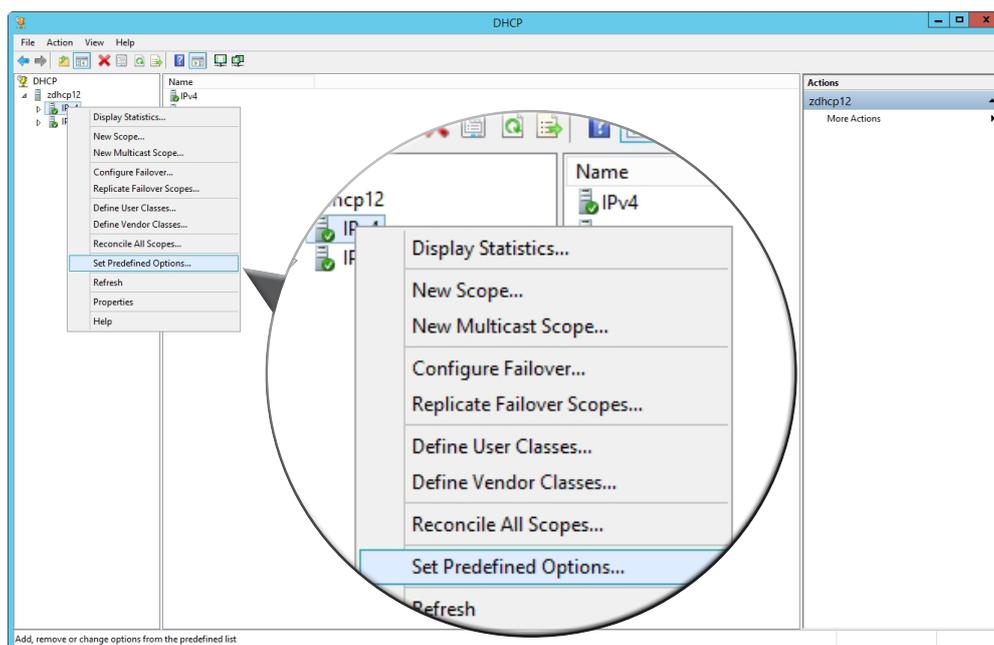
DHCPサーバーを構成するには、次を実行してください。



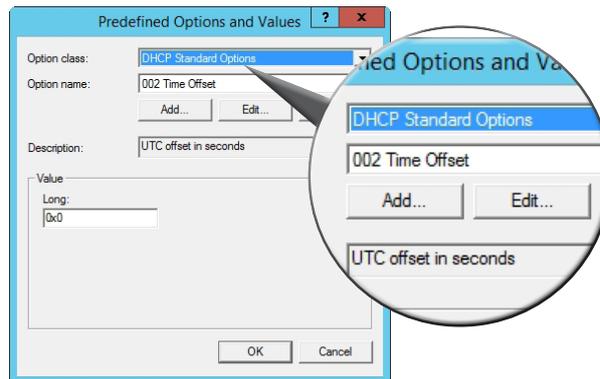
注意

» ここでの手順は、Windows Server 2012 R2(Datacenterエディション)で実装されたDHCPサーバーに基づいています。OSまたはエディションが異なるDHCPサーバーでは、手順が異なる場合があります。

1. DHCPサーバーを展開します。
2. 管理者アカウントでサーバーにログインします。
3. [スタート]> [管理ツール]> [DHCP]をクリックして、DHCP管理コンソールを起動します。
4. DHCPサーバーが各エンドポイントデバイスに割り当てることができるAuto Setup環境の3つのカスタム構成パラメーターを追加します。
 - (a) 左側のペインでツリーを開き、IPv4を右クリックしてポップアップメニューを開き、事前定義オプションを設定します。



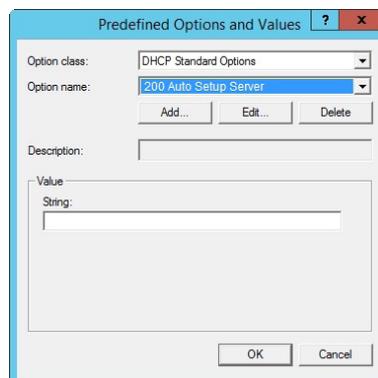
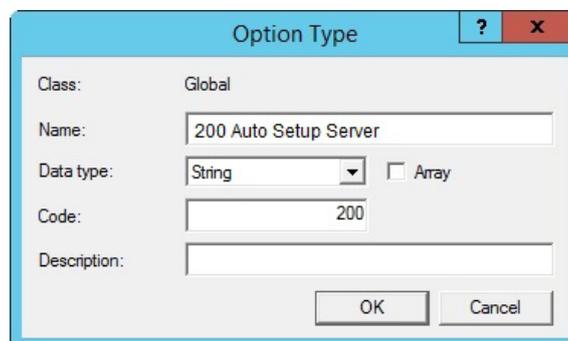
(b) 開いたダイアログボックスで、[追加]をクリックします。



追加する構成パラメーター

| データタイプ | コード | 使用法 |
|--------|-----|---|
| string | 200 | Web / FTPサーバーのアドレスを指定するために使用されます |
| string | 201 | FTPサーバーに接続するためのアカウント名を指定するために使用されます |
| string | 202 | FTPサーバーに接続するためのアカウントパスワードを指定するために使用されます |

(c) 開いたダイアログボックスで、目的のオプション名を入力し、ドロップダウンメニューをクリックしてデータ型として文字列を選択し、コードフィールドに200を入力し、目的の説明を追加し、[OK]をクリックして確認します。新しく追加されたオプションは、ドロップダウンメニューに表示されます。



(d) ステップ (b) から (c) に従って、さらに2つの構成パラメーターを追加します。

データ型としての文字列、コードとしての201、および目的のオプション名と説明。
データ型としての文字列、コードとしての202、および目的のオプション名と説明。

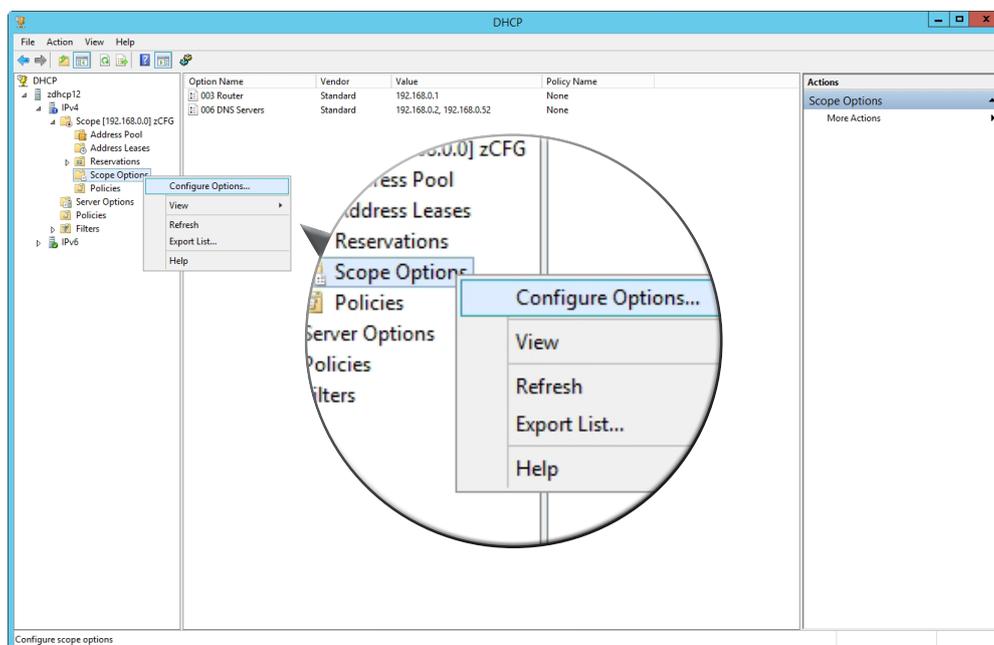
注意

» (FTPサーバーではなく) Webサーバーが Auto Setup環境で使用される場合、この手順は不要です。

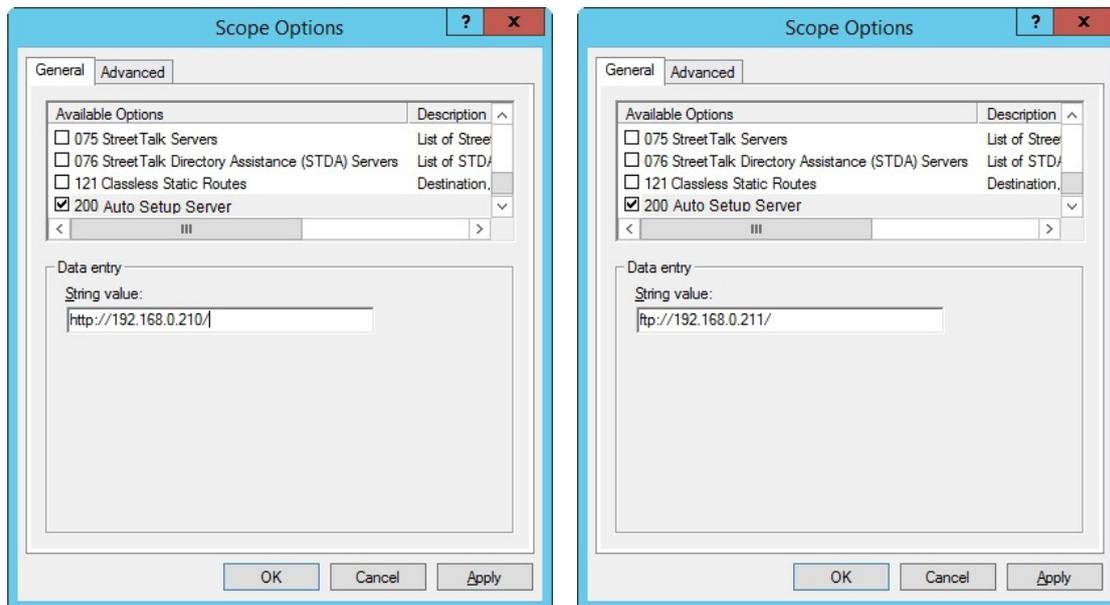
(e) [OK] をクリックして、ダイアログボックスを閉じます。

5. 構成ファイルを取得する場所をエンドポイントデバイスに指示するオプションを追加します。

(a) 左側のペインで、Auto SetupモードのエンドポイントデバイスのIPスコープノードを展開し、スコープオプションを右クリックしてポップアップメニューを開き、[オプションの構成] をクリックします。



- (b) 開いたダイアログボックスで、スクロールバーを使用して[コード200]オプションを見つけて選択し、文字列値としてWeb / FTPサーバーのHTTP / FTPアドレスを入力します。



- (c) [OK]をクリックして確定します。新しいエントリが中央のペインに表示されます。

| Option Name | Vendor | Value | Policy Name |
|-----------------------|----------|---------------------------|-------------|
| 003 Router | Standard | 192.168.0.1 | None |
| 006 DNS Servers | Standard | 192.168.0.2, 192.168.0.52 | None |
| 200 Auto Setup Server | Standard | http://192.168.0.210/ | None |

| Option Name | Vendor | Value | Policy Name |
|-----------------------|----------|---------------------------|-------------|
| 003 Router | Standard | 192.168.0.1 | None |
| 006 DNS Servers | Standard | 192.168.0.2, 192.168.0.52 | None |
| 200 Auto Setup Server | Standard | ftp://192.168.0.211/ | None |

6. FTPサーバーの接続に使用するアカウントをエンドポイントデバイスに指示する2つのオプションを追加します。



注意

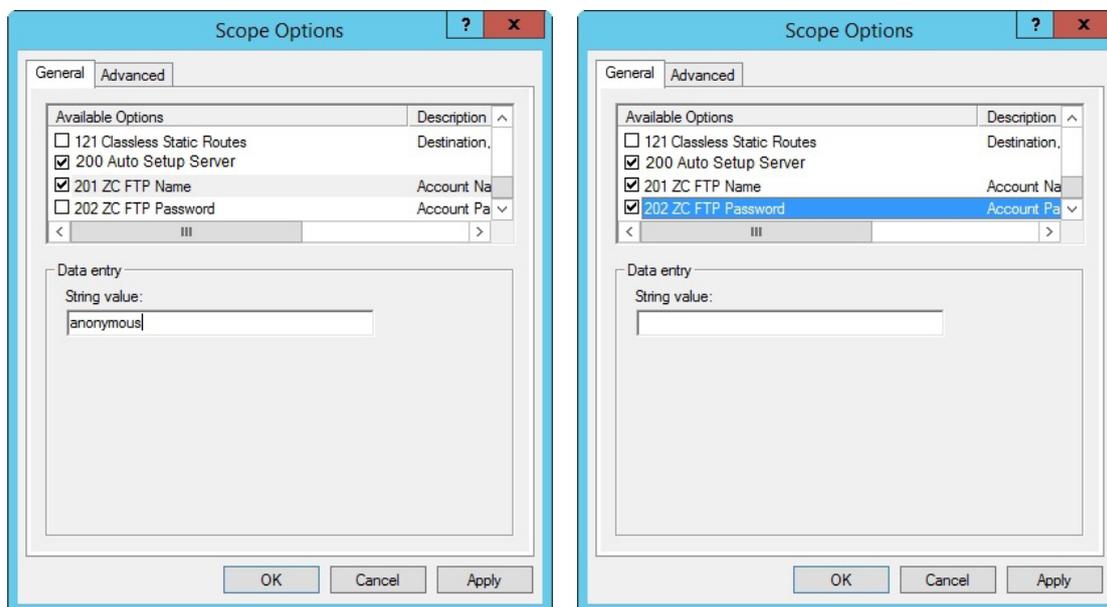
- » (FTPサーバーではなく)WebサーバーがAuto Setup環境で使用される場合、この手順は不要です。

- (a) 左ペインで、[スコープオプション]を右クリックしてポップアップメニューを開き、[オプションの構成]をクリックします。

- (b) 開かれたダイアログボックスで、スクロールバーを使用して、コード201およびコード202オプションを見つけて選択します。

(c) アカウント名とパスワードを入力します。選択した認証方法に応じて:

アカウント名として匿名を入力し、パスワードを空白のままにします。または、目的のアカウント名とパスワードをここに入力します。



(d) [OK]をクリックして確定します。新しいエントリが中央のペインに表示されます。

| Option Name | Vendor | Value | Policy Name |
|-----------------------|----------|---------------------------|-------------|
| 003 Router | Standard | 192.168.0.1 | None |
| 006 DNS Servers | Standard | 192.168.0.2, 192.168.0.52 | None |
| 200 Auto Setup Server | Standard | ftp://192.168.0.211/ | None |
| 201 ZC FTP Name | Standard | anonymous | None |
| 202 ZC FTP Password | Standard | | None |

非DHCP環境用のクライアントの構成

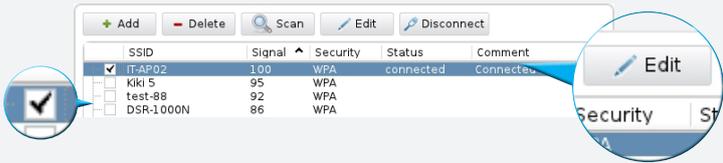
非DHCP環境用にクライアントを構成するには、次を実行してください。

1. エンドポイントデバイスの静的IPアドレスを構成します。
 - (a) キーボード、マウス、およびモニターが接続され、モニターがオンになっていることを確認します。
 - (b) エンドポイントデバイスがネットワークに物理的に接続されているか、ワイヤレス dongle が接続されていることを確認してください。
 - (c) エンドポイントデバイスをコンセントに接続してから、電源を入れます。
 - (d) [クイック接続]画面で、[セットアップ ]アイコンをクリックして、Atrust Client Setupを起動します。
 - (e) [ネットワーク] > [イーサネット]または[ネットワーク] > [ワイヤレス]を使用して、エンドポイントデバイスの静的IPアドレスを設定します。

 **注意**

» ワイヤレス接続の場合:

1. 最初にワイヤレス接続を作成します。
2. その接続を選択して、静的IPアドレスのIPv4設定を編集します。



2. ネットワーク環境のDHCPサーバーによって提供されるのではなく、各エンドポイントデバイスのWeb / FTPサーバーに関するデータを指定します。

- (a) Atrust Client Setupで、System > Auto Setupをクリックします。

Basic Settings

Enable Auto Setup

Use Interface: Ethernet

Web/FTP Server Address:

Web/FTP Username:

Web/FTP Password:

** This setting will take effect after reboot.*

(b) ネットワークインターフェースの目的のタイプを選択します:イーサネットまたはワイヤレス



注意

- » Auto Setupに使用されるネットワークインターフェースの正しいタイプを選択する必要があります。エンドポイントデバイスがネットワーク経由で設定を取得すると、設定で指定されている場合、インターフェースのタイプを含むすべての設定値がロックされる可能性があります。

(c) Auto Setup用のWeb / FTPサーバーのサーバーアドレスを入力します。



注意

- » プレフィックスftp://を含むFTPサーバーアドレスを使用するには、必須です。たとえば、単に192.168.0.211と入力するのではなく、ftp://192.168.0.211と入力します。

Basic Settings

Enable Auto Setup

Use Interface:

Web/FTP Server Address:

Web/FTP Username:

Web/FTP Password:

** This setting will take effect after reboot.*

- » Webサーバーアドレスの場合は、そのIPアドレスを入力するだけです。

Basic Settings

Enable Auto Setup

Use Interface:

Web/FTP Server Address:

Web/FTP Username:

Web/FTP Password:

** This setting will take effect after reboot.*

(d) 必要に応じて、Web / FTPサーバーの資格情報を入力します。



ヒント

- » ボタンを使用して、提供されたサーバーが既に配置されているかどうかを確認できます。

»

Basic Settings

Enable Auto Setup

Use Interface:

Web/FTP Server Address:

Web/FTP Username:

Web/FTP Password:

** This setting will take effect after reboot.*

(e) [保存]をクリックして適用します。

ステップ4: 実験的なINIファイルを使用して環境をテストする

最初に実験的なINIファイルを使用してAuto Setup環境をテストし、動作に問題がないことを確認することを強くお勧めします。INIファイルを生成するには、“3.1 INIファイルの生成、表示、保存 (P. 27)” をご覧ください。詳細については、

エンドポイントデバイスでAuto Setup環境をテストするには、次の手順を実行してください。



注意

- » Auto Setup対応デバイスを使用していることを確認してください。



注意

- » エンドポイントデバイスがネットワークを介して設定を取得すると、新しい設定への次の正常なアクセスまでその設定を保持できます (Atrust Auto Setup Creatorの設定によって異なります。“3.6 ユーザー固有の構成の作成 (P. 40)”)。したがって、先に進む前に、エンドポイントデバイスにデフォルト設定があることを確認してください。そうしないと、構成を正常に取得できるのか、古い構成を使用するのかを判断できません。
- » エンドポイントデバイスがネットワーク経由で正常に構成を取得した後にすべての設定をデフォルトに復元する場合は、“付録C.エンドポイントデバイスのリセット (P. 57)” を参照してリセットしてください。
- » エンドポイントデバイスのAuto Setupの設定値を変更または提供する必要がある場合があります。続行する前に、他のデフォルト設定を変更しないでください。

1. キーボード、マウス、およびモニターがエンドポイントデバイスに接続され、モニターがオンになっていることを確認します。
2. エンドポイントデバイスがネットワークに物理的に接続されているか、ワイヤレス dongle が接続されていることを確認してください。
3. エンドポイントデバイスをコンセントに接続してから、電源を入れます。
4. 次の場合には、いくつかの設定を手動で構成し、デバイスを再起動する必要があります。
 - » 非DHCP環境。“非DHCP環境用のクライアントの構成 (P. 21)” を参照して、静的IPアドレスを構成し、Web / FTPサーバーに関するデータを指定します。
 - » ワイヤレスネットワークのみ。ワイヤレス接続を作成し、その接続の起動時に自動接続を有効にします。静的IPアドレスを使用するには、IPv4設定をさらに編集する必要があります。手順については、“非DHCP環境用のクライアントの構成 (P. 21)” の最初の注を参照してください。
5. Atrust Client Setup> System> Auto Setupを使用してAuto Setupモードを有効にし、エンドポイントデバイスを再起動してAuto Setup環境をテストします。



注意

- » “付録A.Auto Setupのフローチャート (P. 51)” を参照してください。

 ヒント

» **Check** ボタンを使用して、提供されたサーバーが既に配置されているかどうかを確認できます。

»

Basic Settings

Enable Auto Setup

Use Interface:

Web/FTP Server Address:

Web/FTP Username:

Web/FTP Password:

** This setting will take effect after reboot.*

Check

- » 失敗の場合、モバイルエンドポイントデバイスはローカルデスクトップに入り(システムのデフォルト)、Auto Setupのすべての設定値はロックされません。
- » 失敗の場合、他のエンドポイントデバイスは、クイック接続画面に入ります(システムのデフォルト)。設計上、エンドポイントデバイスは、Auto Setupモードの場合、自動的にクイック接続モードになりません。
- » 成功した場合、エンドポイントデバイスは、ユーザーログオン/認証画面を表示し、カスタマイズされたショートカットを使用してローカルデスクトップに入り、特定の仮想化サービスのログオン画面、または事前設定に従って予想されるプロセスを入力します。また、Auto Setupのすべての設定値がロックされます。



ステップ5: オンラインINIファイルの作成

実際の操作のためにオンラインINIファイルを作成するには、次の説明を参照してください。



注意

- » Atrust Auto Setup Creatorを使用して、さまざまなタイプのINIファイルを生成、表示、保存できます。Atrust Auto Setup Creatorの使用の詳細については、「3.1 INIファイルの生成、表示、保存 (P. 27)」を参照してください。

3種類のINIファイル

エンドポイントデバイスまたはユーザーの構成を事前設定するために使用できるINIファイルには3つのタイプがあります。ファイル名、場所、それらの適用可能性、必要性、優先度の要件は、以下の表に記載されています。

| タイプ | ファイル名 | 適用性 |
|-------|--------------|---|
| グローバル | autocfg.ini | すべてのAuto Setup対応エンドポイントデバイス |
| MAC | xyyyzz.ini | 最後の6つの英数字MAC xxyyzzを持つ特定のエンドポイントデバイス |
| ユーザー | username.ini | Francis Crick.iniなど、エンドポイントデバイスへのログインに使用される特定のユーザーアカウント |



注意

- » エンドポイントデバイスに有線またはワイヤレスネットワークインターフェイスが使用されている場合でも、MACタイプのINIファイルは常にLANポートの最後の6文字の英数字MACアドレスを使用します。

| タイプ | ロケーション | 必要性と優先度 |
|-------|--|---|
| グローバル | Web サーバ: C:\inetpub\wwwroot\autosetup FTP サーバ: C:\inetpub\ftproot\autosetup | グローバルは、Auto Setup環境に必要な要素です。 MACはグローバルよりも優先されます。 |
| MAC | Web サーバ: C:\inetpub\wwwroot\autosetup\macini FTP サーバ: C:\inetpub\ftproot\autosetup\macini | ユーザーはMACよりも優先されます。 |
| ユーザー | Web サーバ: C:\inetpub\wwwroot\autosetup\userini FTP サーバ: C:\inetpub\ftproot\autosetup\userini | |

3

Auto Setupメカニズムの作成

3.1 INIファイルの生成、表示、保存

Auto Setupモードをサポートするモデルには、GUIツールであるAtrust Auto Setup Creatorが付属しており、目的のINIファイルを生成、表示、保存するのに役立ちます。

INIファイルの生成と保存

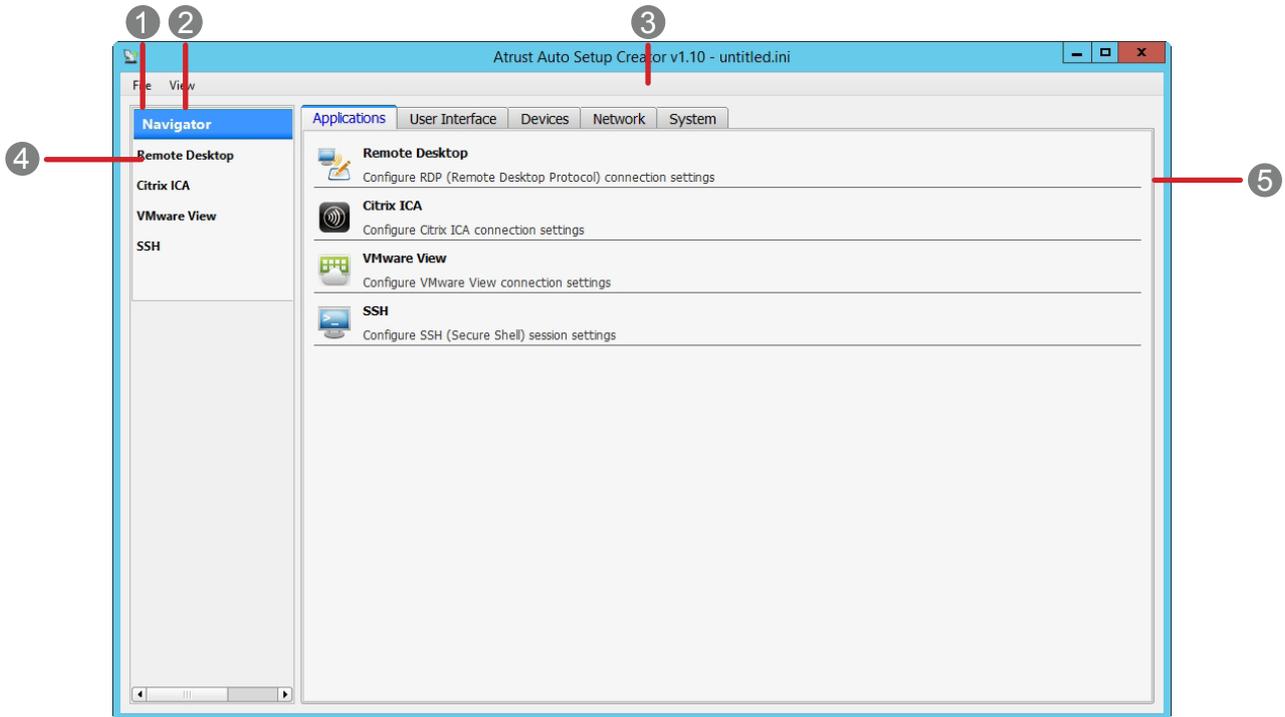
このツールを使用してINIファイルを生成するには、次を実行してください。

1. Atrust Auto Setup CreatorのZIPファイルから目的の場所にファイルを抽出します。抽出されたファイルが表示されます次のように。

| Name | Date modified | Type | Size |
|---|------------------|-------------|--------|
|  bin | 9/16/2015 17:58 | File folder | |
|  data | 9/16/2015 17:58 | File folder | |
|  Atrust Auto Setup Creator.exe | 12/12/2014 20:13 | Application | 109 KB |

2. Atrust Auto Setup Creator.exeをダブルクリックして、ツールを直接実行します。優先インターフェース言語を選択すると、Atrust Auto Setup Creatorが起動します。

インターフェースの概要



| 番号 | 名前 | 説明 |
|----|------------|---|
| 1 | ファイルメニュー | INIファイルの管理(保存、オープン、作成)に使用されます。 |
| 2 | 表示メニュー | ロードされた設定または現在の設定を表示するために使用されます。 |
| 3 | パスとステータス | INIファイルのパス(存在する場合)およびファイルステータス(保存されているかどうか)を表示するために使用されます。 注:INIファイルに加えた変更を保存していない場合、ファイル名の後にアスタリスク(*)が追加されます。 |
| 4 | ナビゲーションエリア | メイン設定カテゴリの設定項目を切り替えるために使用します。 |
| 5 | 設定エリア | 詳細設定を構成するために使用されます。 |

3. このGUIツールを使用して、エンドポイントデバイスの設定(INIファイル)を構成します。

- » 設定カテゴリ、設定項目を選択し、値を選択または指定します。
- » 設定項目を構成したら、[保存]をクリックして適用します。

3種類のINIファイル

エンドポイントデバイスまたはユーザーの構成を事前設定するために使用できるINIファイルには3つのタイプがあります。ファイル名、場所、それらの適用可能性、必要性、優先度の要件は、以下の表に記載されています。

| タイプ | ファイル名 | 適用性 |
|-------|--------------|---|
| グローバル | autocfg.ini | すべてのAuto Setup対応エンドポイントデバイス |
| MAC | xyyz.ini | 最後の6つの英数字MAC xyyzを持つ特定のエンドポイントデバイス |
| ユーザー | username.ini | Francis Crick.iniなど、エンドポイントデバイスへのログインに使用される特定のユーザーアカウント |



注意

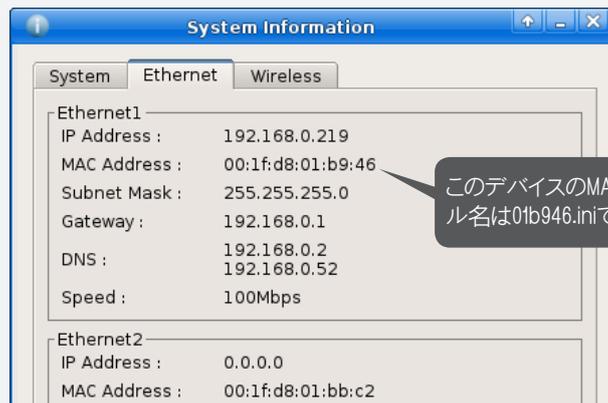
- * エンドポイントデバイスに有線またはワイヤレスネットワークインターフェイスが使用されている場合でも、MACタイプのINIファイルは常にLANポートの最後の6文字の英数字MACアドレスを使用します。

| タイプ | ロケーション | 必要性と優先度 |
|-------|--|---|
| グローバル | <ul style="list-style-type: none"> » Web サーバ: C:\inetpub\wwwroot\autosetup » FTP サーバ: C:\inetpub\ftproot\autosetup | <ul style="list-style-type: none"> » グローバルは、Auto Setup環境に必要な要素です。 » MACはグローバルよりも優先されます。 » ユーザーはMACよりも優先されます。 |
| MAC | <ul style="list-style-type: none"> » Web サーバ: C:\inetpub\wwwroot\autosetup\macini » FTP サーバ: C:\inetpub\ftproot\autosetup\macini | |
| ユーザー | <ul style="list-style-type: none"> » Web サーバ: C:\inetpub\wwwroot\autosetup\userini » FTP サーバ: C:\inetpub\ftproot\autosetup\userini | |



ヒント

- * MACアドレスの場所。エンドポイントデバイスのローカルデスクトップで、をクリックします
- * スタート>設定>システム情報>イーサネット。希望する情報ページに表示されます:



4. Atrust Auto Setup Creatorの左上隅にある[ファイル]メニューオプションの[保存]または[名前を付けて保存]を使用して、設定を見つけてINIファイルとして保存します。

INIファイルを開く

Atrust Auto Setup Creatorで既存のINIファイルを開くには、次を実行してください。

1. Atrust Auto Setup Creatorで、左上の[ファイル]> [開く]をクリックして、既存のINIファイルを見つけて選択します。
2. [開く]をクリックして、そのINIファイルを開きます。

新しいINIファイルの作成

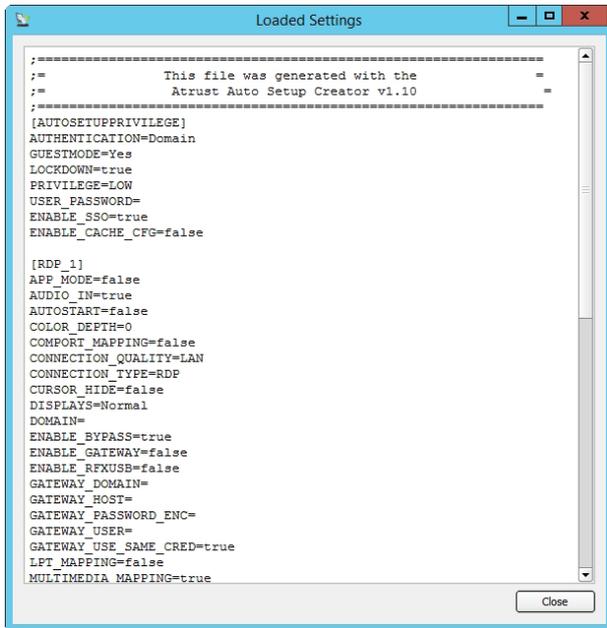
Atrust Auto Setup Creatorを使用して新しいINIファイルを作成するには、次を実行してください。

1. Atrust Auto Setup Creatorで、左上隅の[ファイル]> [新規]をクリックします。
2. これで、新しいINIファイルの編集を開始できます。

INIファイルの表示

開いた、または編集したINIファイルを表示するには、次を実行してください。

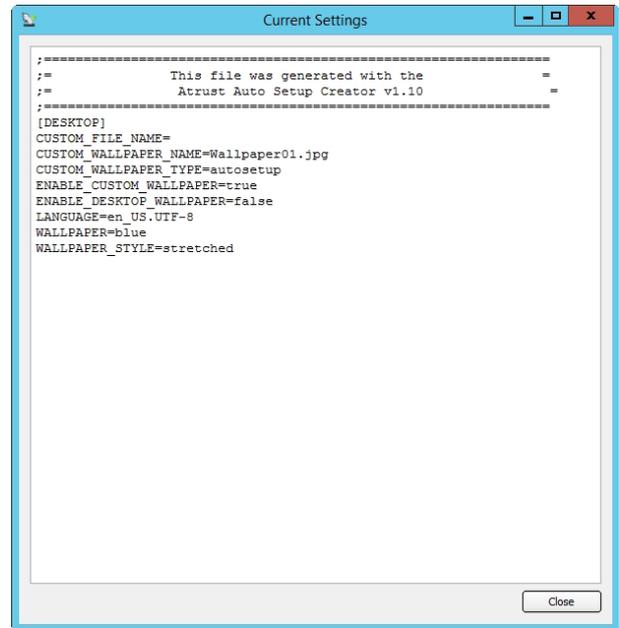
1. Atrust Auto Setup Creatorで、左上隅の[ファイル]> [表示]をクリックします。
2. [読み込まれた設定を表示] / [現在の設定を表示]をクリックして、開いたまたは編集したINIファイルを表示します。



```

;=====
;=          This file was generated with the          =
;=          Atrust Auto Setup Creator v1.10          =
;=====
[AUTOSETUPPRIVILEGE]
AUTHENTICATION=Domain
GUESTMODE=Yes
LOCKDOWN=true
PRIVILEGE=LOW
USER_PASSWORD=
ENABLE_SSO=true
ENABLE_CACHE_CFG=false

[RDPI]
AFP_MODE=false
AUDIO_IN=true
AUTOSTART=false
COLOR_DEPTH=0
COMPORT_MAPPING=false
CONNECTION_QUALITY=LAN
CONNECTION_TYPE=RDP
CURSOR_HIDE=false
DISPLAYS=Normal
DOMAIN=
ENABLE_BYPASS=true
ENABLE_GATEWAY=false
ENABLE_RFXUSB=false
GATEWAY_DOMAIN=
GATEWAY_HOST=
GATEWAY_PASSWORD_ENC=
GATEWAY_USER=
GATEWAY_USE_SAME_CRED=true
LPT_MAPPING=false
MULTIMEDIA_MAPPING=true
  
```



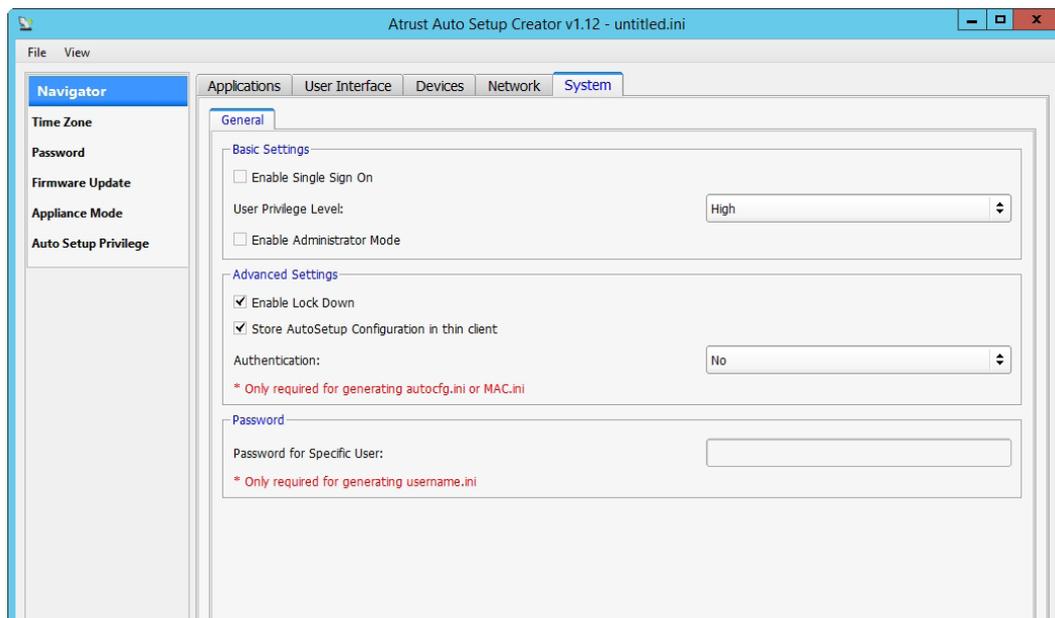
```

;=====
;=          This file was generated with the          =
;=          Atrust Auto Setup Creator v1.10          =
;=====
[DESKTOP]
CUSTOM_FILE_NAME=
CUSTOM_WALLPAPER_NAME=Wallpaper01.jpg
CUSTOM_WALLPAPER_TYPE=autoseup
ENABLE_CUSTOM_WALLPAPER=true
ENABLE_DESKTOP_WALLPAPER=false
LANGUAGE=en_US.UTF-8
WALLPAPER=blue
WALLPAPER_STYLE=stretched
  
```

3.2 ユーザー特権の構成

Atrust Auto Setup Creatorを使用すると、シンクライアントユーザーが利用できる設定の範囲を構成できます。ユーザー権限を設定するには、次を実行してください。

1. Atrust Auto Setup Creatorで、[システム]> [Auto Setup特権]をクリックして、次のようにページに入ります。



2. ユーザー特権レベルを使用して、シンクライアントユーザーが使用できる設定の範囲を設定します。高、中、低、なしの3つの特権レベルが利用可能です。詳細については、以下の表を参照してください。

| ユーザー特権レベル | 利用可能な設定 |
|-----------|--|
| 高い | <p>[アプリケーション]タブ</p> <ul style="list-style-type: none"> » リモートデスクトップ » Citrix ICA » VMware View » SSH <p>ユーザーインターフェイスタブ</p> <ul style="list-style-type: none"> » 表示 » デスクトップ » キーボード » マウス » スクリーンセーバー <p>デバイスタブ</p> <ul style="list-style-type: none"> » USBストレージ » オーディオ » プリンター <p>ネットワークタブ</p> <ul style="list-style-type: none"> » イーサネット » ルート » VPN » ホスト » ホスト名 » 無線 » Proxy <p>システムタブ</p> <ul style="list-style-type: none"> » タイムゾーン » パスワード » ファームウェアの更新 » アプライアンスモード » 自動設定 » クイック接続 » ターミナル » エラーレポート » 証明書マネージャー |
| 中 | <p>ユーザーインターフェイスタブ</p> <ul style="list-style-type: none"> » 表示 » デスクトップ » キーボード » マウス » スクリーンセーバー <p>ネットワークタブ</p> <ul style="list-style-type: none"> » イーサネット » 無線 <p>システムタブ</p> <ul style="list-style-type: none"> » タイムゾーン » エラーレポート |
| 低い | <p>ユーザーインターフェイスタブ</p> <ul style="list-style-type: none"> » 表示 » デスクトップ » キーボード » マウス » スクリーンセーバー <p>システムタブ</p> <ul style="list-style-type: none"> » タイムゾーン » エラーレポート |
| 無し | <p>システムタブ</p> <ul style="list-style-type: none"> » エラーレポート |



注意

- * 一部の設定項目がロックされている可能性があります。詳細については、前のポイントを参照してください。
- * 各レベルで使用可能な設定は、シンクライアントのモデルとファームウェアバージョンによって異なる場合があります。

3. [保存]をクリックして適用します。
4. すべての設定をグローバル、MAC、またはユーザータイプのINIファイルに保存します。



注意

- * さまざまなINIタイプの適用性、必要性、優先度の詳細については、表“3種類のINIファイル (P. 28)”を参照してください。

3.3 管理者モードの許可または禁止

エンドポイントデバイスの管理者モードでは、設定の最も広いアクセス範囲が許可されます。管理者モードのエンドポイントデバイスのユーザーは、ユーザー特権レベルが[高]に設定されている場合、ユーザーと同じ数の設定を構成できます。

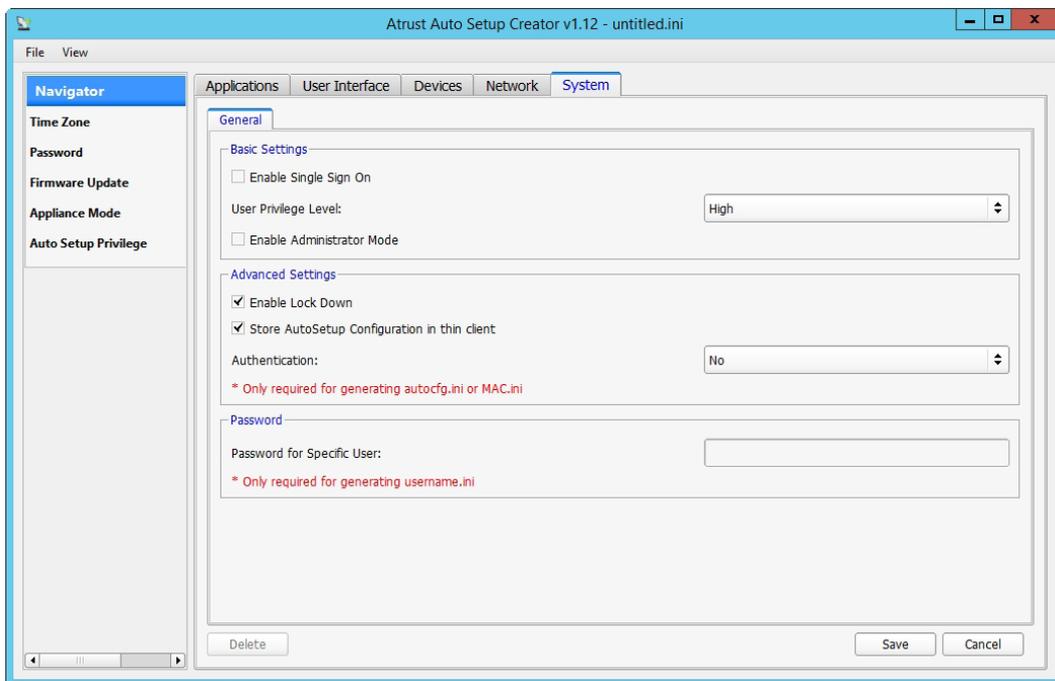


注意

* 利用可能なユーザー特権レベルについては、“3.2 ユーザー特権の構成 (P. 30)”を参照してください。

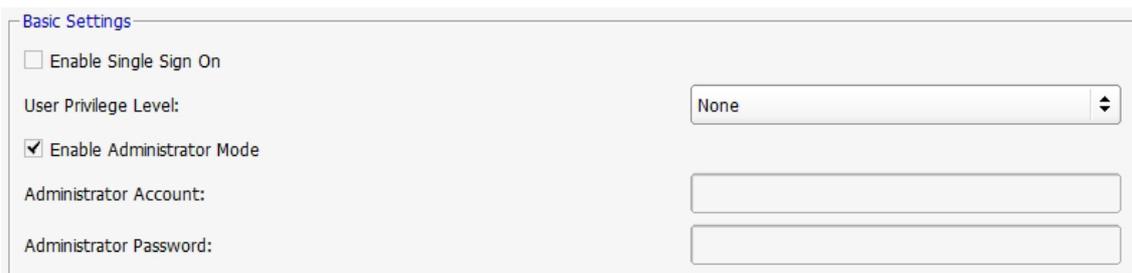
エンドポイントデバイスで管理者モードを許可または禁止するには、次の手順を実行してください。

1. Atrust Auto Setup Creatorで、[システム]> [Auto Setup特権]をクリックして、次のようにページに入ります。



2. エンドポイントデバイスで管理者モードを許可または禁止するには、オンまたはオフにします。

3. オンにすると、管理者モードの資格情報を提供する2つのフィールドが表示されます。



**注意**

* エンドポイントデバイスで管理者モードに入るには資格情報が必要です。エンドポイントデバイスは、すぐに自動的にそのモードに入ることはありません。

**警告**

* ここでこれらの2つのフィールドを空白のままにすると、エンドポイントデバイスのユーザーは資格情報なしで管理者モードに入ることができます。

4. [保存]をクリックして適用します。
5. すべての設定をグローバル、MAC、またはユーザータイプのINIファイルに保存します。

**注意**

* さまざまなINIタイプの適用性、必要性、優先度の詳細については、表“3種類のINIファイル (P. 28)”を参照してください。

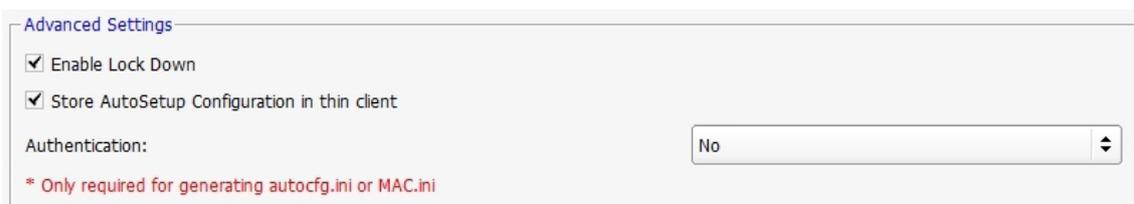
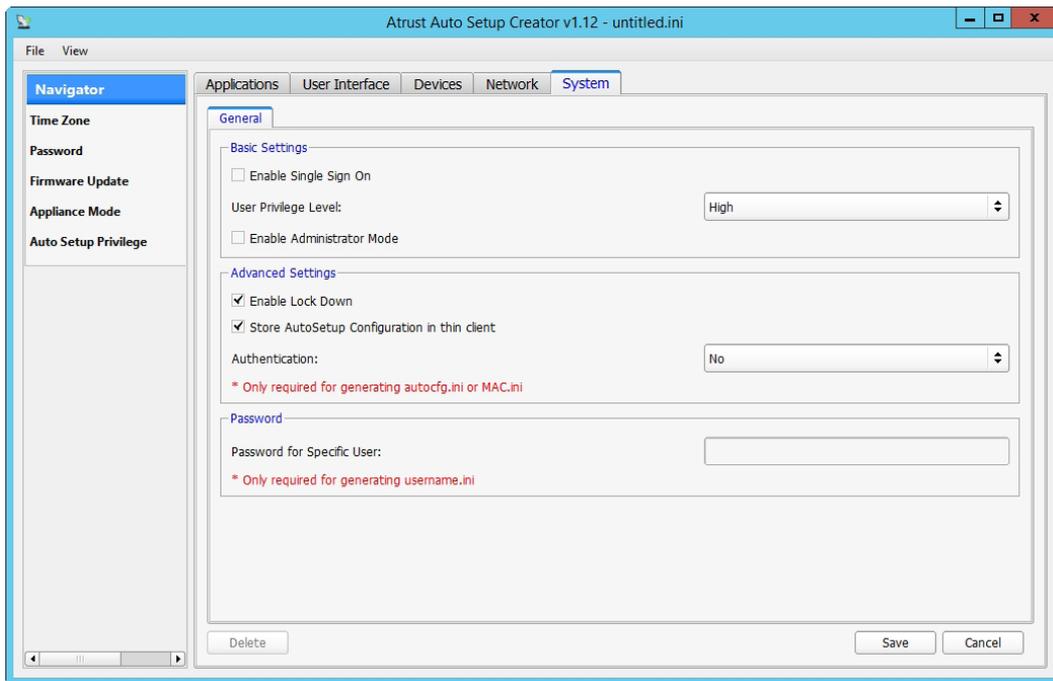
3.4 Auto Setupでのロックと設定の保持

Auto Setupモードでのロック

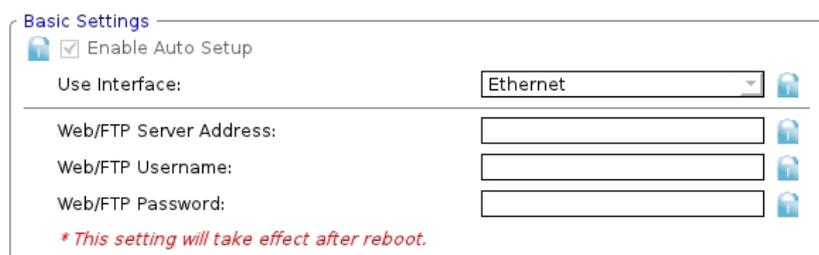
事前設定により、エンドポイントデバイスをAuto Setupモードでロックし、(Atrust Client Setupを介して)Auto Setupを無効にするだけで、ユーザーがAuto Setupモードを終了できないようにすることができます。

エンドポイントデバイスをAuto Setupモードでロックするには、次を実行してください。

1. Atrust Auto Setup Creatorで、[システム]> [Auto Setup特権]をクリックして、次のようにページに入ります。



2. 上記の[Enable Lock Down]を使用して、Atrust Client Setupの[Auto Setup]の下のすべての設定値をロックします。設定値の保護されていない灰色のロックアイコン (🔒) は、保護された青いロックアイコン (🔒) になります。



Atrust Client SetupのAuto Setupの下の設定



注意

* Atrust Auto Setup Creatorによって指定された他の設定値は、ロックダウンを有効にするかどうかに関係なくロックされます。

3. [保存]をクリックして適用します。
4. すべての設定をグローバルまたはMACタイプのINIファイルに保存します。

再起動後の構成の保持または破棄

再起動後、エンドポイントデバイスでAuto Setup構成を保持するかどうかを選択できます。デフォルトでは、Auto Setup構成は再起動後も保持されます。更新された構成がない場合、またはネットワーク接続がない場合、保存されている構成が使用されます。再起動後にその構成を破棄することを選択した場合、エンドポイントデバイスは、再起動するたびにネットワークを介してその構成を取り戻します。

再起動後にエンドポイントデバイスの構成を保持するかどうかを構成するには、次の手順を実行してください。

1. Atrust Auto Setup Creatorで、[システム]> [Auto Setup特権]をクリックしてページに入ります。
2. Thin ClientにAutoSetup構成を保存するをオンまたはオフにします。

Advanced Settings

Enable Lock Down

Store AutoSetup Configuration in thin client

Authentication:

* Only required for generating autocfg.ini or MAC.ini

3. [保存]をクリックして適用します。
4. すべての設定をグローバルまたはMACタイプのINIファイルに保存します。

3.5 ユーザー認証とシングルサインオン

ユーザー認証の構成

Auto Setupはユーザー固有の構成をサポートしているため、ユーザーは同じユーザー環境で異なるエンドポイントデバイスにログインできます。ユーザー固有の構成を使用するには、ユーザー認証を構成して、ユーザー固有の構成と環境を取得するためにユーザーのIDを確認する必要があります。

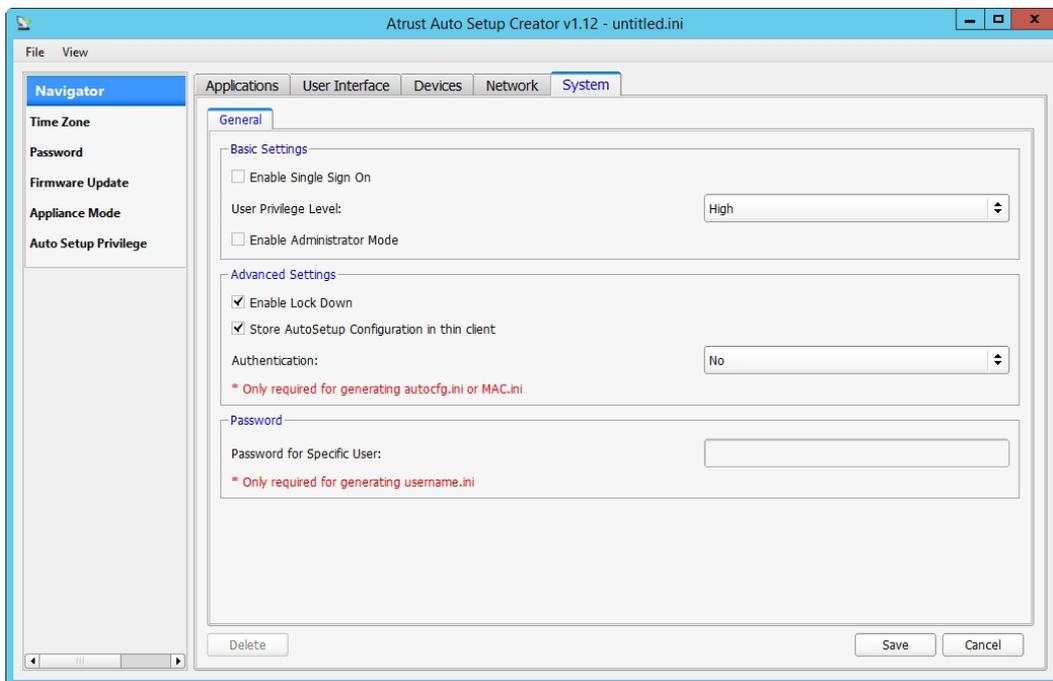


注意

* さらに、提供されたユーザー認証の資格情報を仮想デスクトップまたはアプリケーションに自動的に渡すシングルサインオン機能を使用するには、最初にユーザー認証を有効にする必要があります。

ユーザー認証を構成するには、次を実行してください。

1. Atrust Auto Setup Creatorで、[システム]> [Auto Setup特権]をクリックして、次のようにページに入ります。



2. [認証]ドロップダウンメニューをクリックして、目的の認証方法を選択します。適切なオプションを選択するには、表を参照してください。

| 認証 | | |
|------|---|--|
| 項目 | | 説明 |
| 番号 | | ユーザー認証なし、ユーザー固有の構成なし、ユーザー固有の環境なし |
| ユーザー | ゲストモードを有効にする | Yes ユーザー認証と有効なゲストモード 注意: ゲストモードが有効になっている場合、資格情報を持たないユーザーは、ビルトインゲストアカウントでエンドポイントデバイスを引き続き使用できます。その後、グローバルおよびMAC(ある場合)構成が適用されます。この機能を使用して、資格情報を持たないユーザーに基本的かつ限定的な使用を許可することもできます。たとえば、訪問者のために会議室でエンドポイントデバイスを使用します。 |
| | | No ユーザー認証と無効なゲストモード 注意: ゲストモードを無効にすると、資格情報を持たないユーザーはエンドポイントデバイスを使用できなくなります。 |
| | 自動ログオン Guestアカウントでの自動ログオン 注意: エンドポイントデバイスは、ビルトインGuestアカウントでシステムにログインします。グローバルおよびMAC(ある場合)構成が適用されます。 | |
| ドメイン | | Active Directoryサービスを使用したユーザー認証 注意: ネットワークでActive Directoryサービスが利用可能であることを確認してください。 |

3. [保存]をクリックして適用します。

4. すべての設定をグローバルまたはMACタイプのINIファイルに保存します。



注意

* ここで説明するグローバルまたはMACタイプのINIファイルは、ユーザー認証方法を指定するためのものです。ここでユーザーまたはドメインを選択した場合は、ユーザー固有のINIファイルをさらに作成して、各ターゲットユーザーの特定の構成を指定する必要があります。“3.6 ユーザー固有の構成の作成 (P. 40)”を参照してください。



注意

* Active Directory(ドメイン)が認証に使用され、Guestアカウントが空白のパスワード(デフォルト)で有効になっている場合、ユーザーは任意のアカウント名とパスワードで認証を渡すことができます。

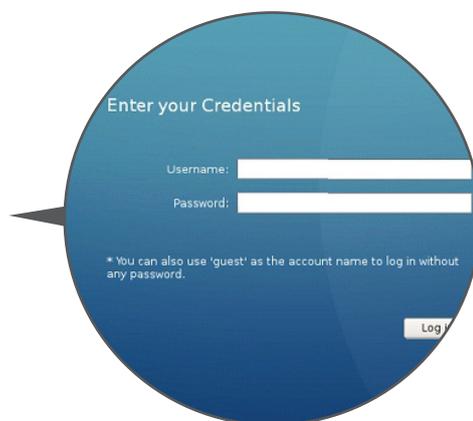
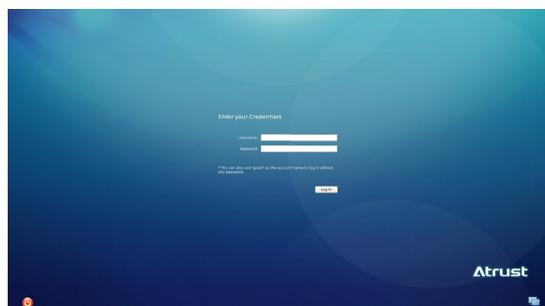
[1] そのドメインのGuestアカウントを無効にすることをお勧めします(<https://msdn.microsoft.com/en-us/library/cc755130.aspx>)を参照してください。

[2] Guestアカウントを有効にする必要がある場合は、このアカウントをパスワードで保護することをお勧めします。

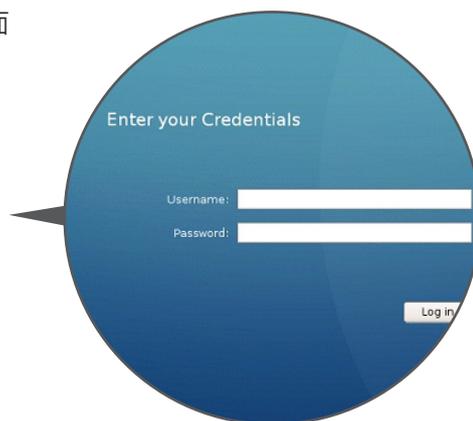
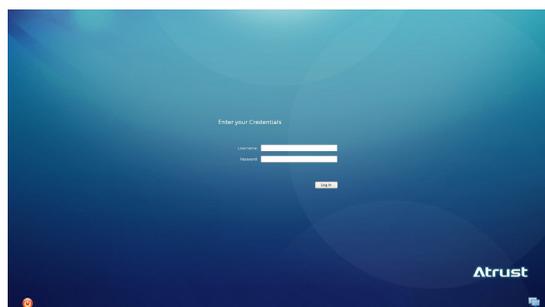
この問題は、アクション[1]または[2]を実行することで解決されます。

この問題は、アクション[1]または[2]を実行することで解決されます。

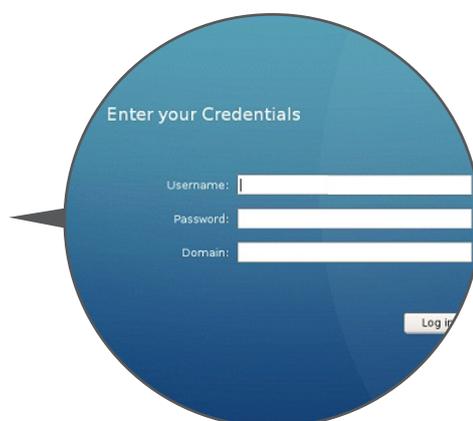
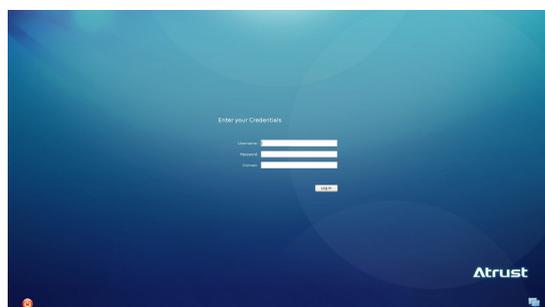
ゲスト対応のユーザー認証を使用したログオン画面



ゲストが無効なユーザー認証を使用したログオン画面



Active Directory認証を使用したログオン画面

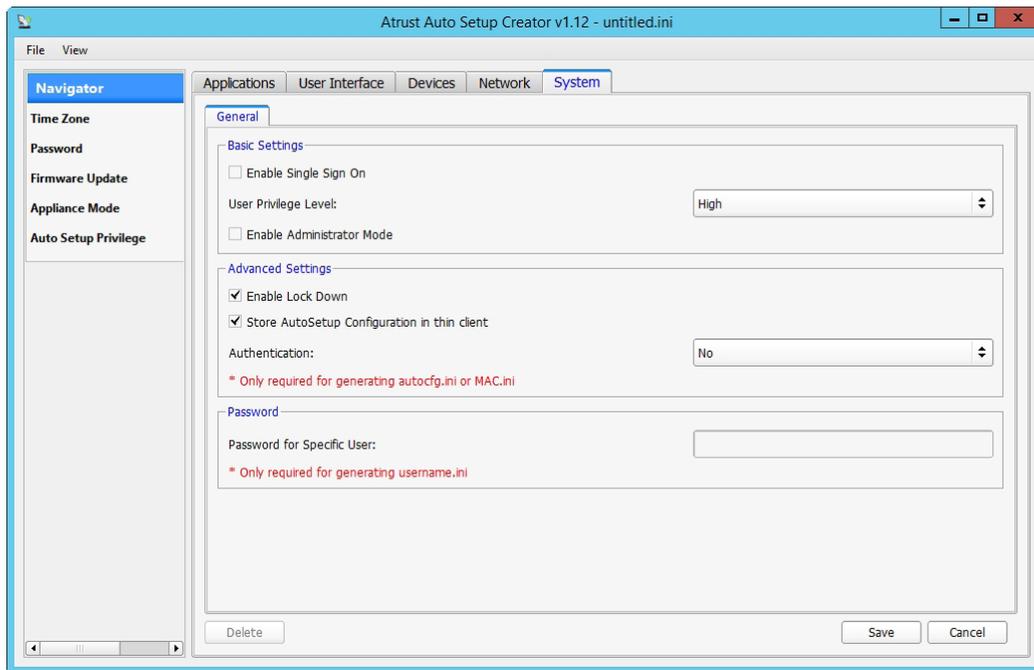


シングルサインオンの有効化または無効化

Auto Setupはシングルサインオンをサポートし、提供されたユーザー認証の資格情報を仮想デスクトップまたはアプリケーションに自動的に渡します。ユーザー認証が有効になっていることを確認してください（“ユーザー認証の構成（P. 36）”を参照）。

シングルサインオンを有効または無効にするには、次の手順を実行してください。

1. Atrust Auto Setup Creatorで、[システム]> [Auto Setup特権]をクリックして、次のようにページに入ります。



2. [シングルサインオンを有効にする]をオンまたはオフにして、シングルサインオンを有効または無効にします。



注意

* デフォルトでは、シングルサインオンは無効になっています。

3. [保存]をクリックして適用します。
4. すべての設定をグローバルまたはMACタイプのINIファイルに保存します。



注意

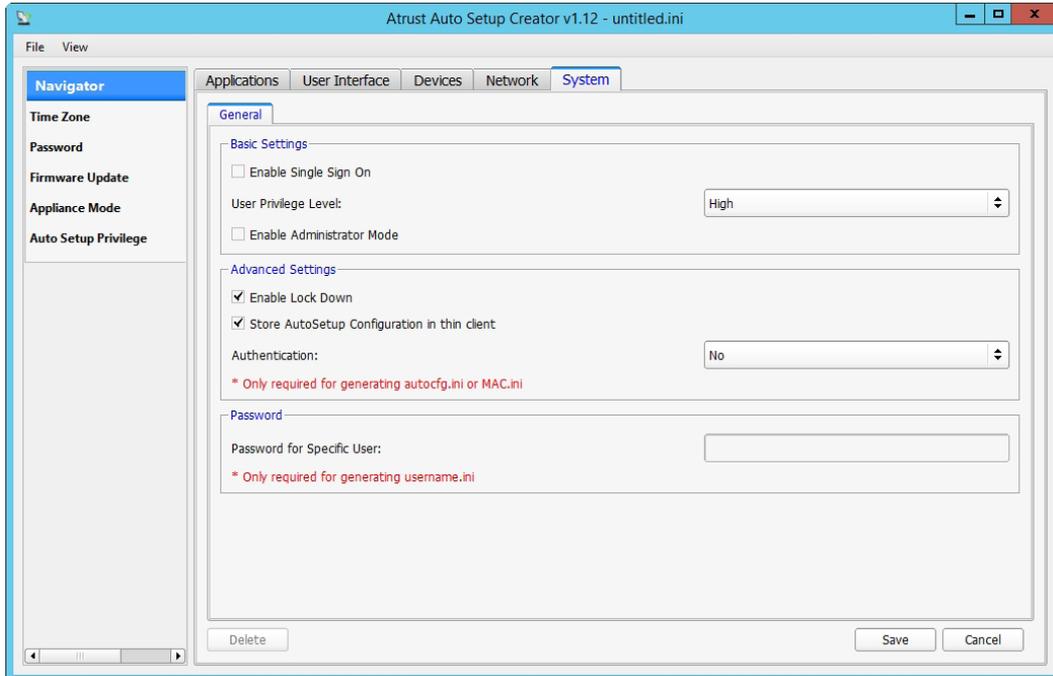
* シングルサインオン (1)はINIファイルで定義された接続にのみ適用され、(2)Microsoft RD Webアクセス、RD Webフィード、およびCitrix Webログオンをサポートしません。

3.6 ユーザー固有の構成の作成

Auto Setupはユーザー固有の構成をサポートしているため、ユーザーは同じユーザー環境で異なるエンドポイントデバイスにログインできます。

ユーザー固有の構成を作成するには、次を実行してください。

1. Atrust Auto Setup Creatorで、[システム]> [Auto Setup特権]をクリックして、次のようにページに入ります。



2. 特定のユーザーのパスワードを使用して特定のユーザーアカウントのパスワードを指定し、[保存]をクリックして適用します。



注意

* ドメインユーザーのユーザーINIファイルでパスワードを指定する必要はありません。これは、認証方法として[ユーザー]が選択されている場合にのみ必要です。

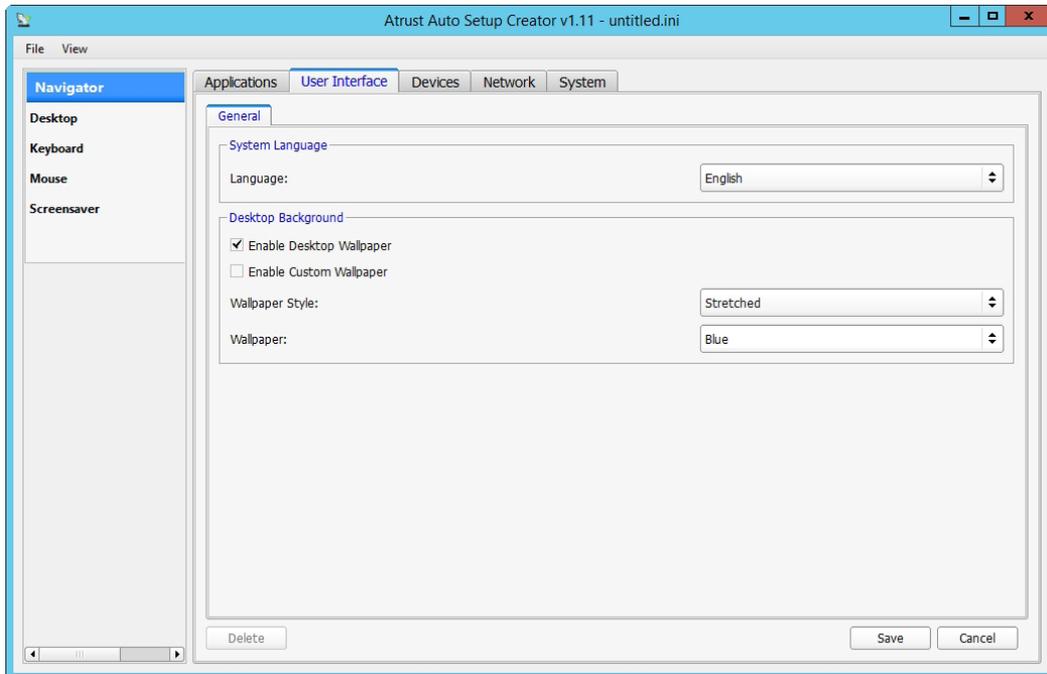
3. その特定のユーザーの設定を構成します。
 - » 設定カテゴリ、設定項目を選択し、値を選択または指定します。
 - » 設定項目を構成したら、[保存]をクリックして適用します。
4. ユーザーのアカウント名をファイル名として、すべての設定をユーザー構成ファイル (INIファイル) に保存します。

3.7 カスタム壁紙を使用する

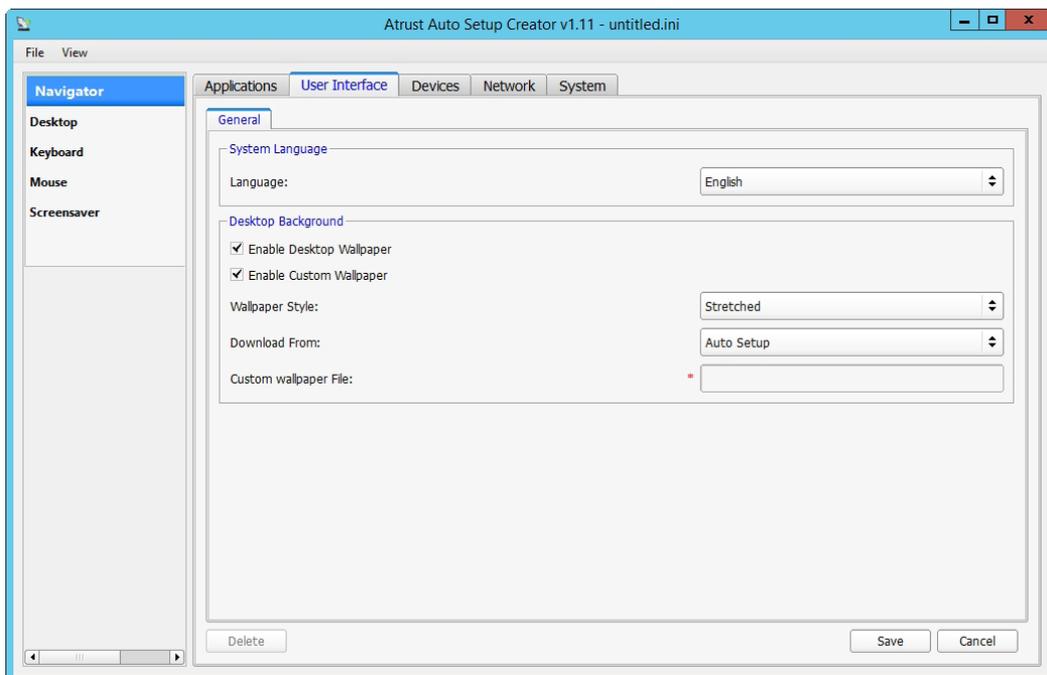
Auto Setupモードでは、エンドポイントデバイスはカスタムの壁紙を自動的にダウンロードして使用できます。

エンドポイントデバイスのカスタム壁紙を有効にするには、次を実行してください。

1. Atrust Auto Setup Creatorで、[ユーザーインターフェイス]> [デスクトップ]をクリックします。

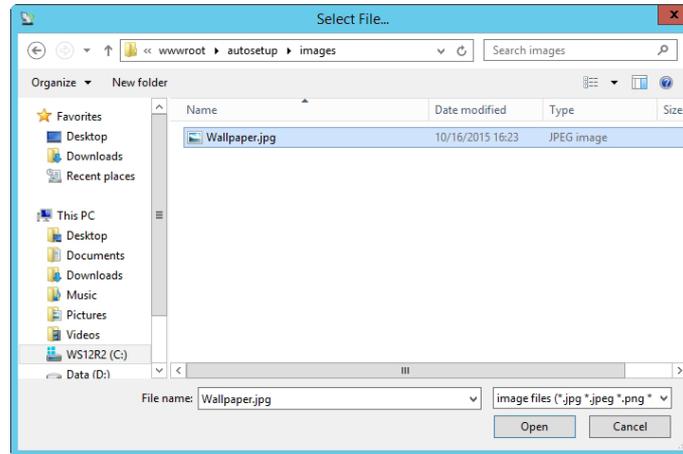


2. [カスタム壁紙を有効にする]をオンにします。



3. 壁紙を適用する方法を選択し、Auto Setupを選択して画像ファイルをダウンロードします。

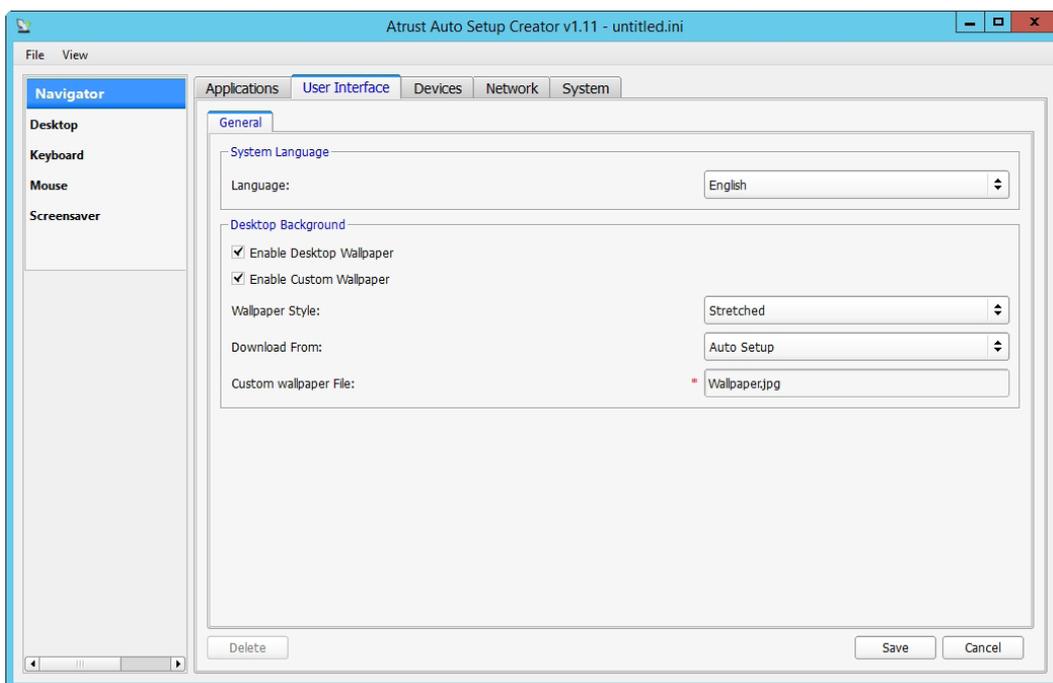
4. [カスタム壁紙ファイル]フィールドをクリックして、開いているウィンドウで目的の壁紙を見つけ、[開く]をクリックして確認します。



注意

- * 壁紙の場所。壁紙画像ファイルをパスに配置してください:
 - » Web サーバ: C:\inetpub\wwwroot\autoseup\images
 - » FTP サーバ: C:\inetpub\ftproot\autoseup\images
- * Supported Wallpaper Formats: JPG, JPEG, BMP, and PNG.
- * 壁紙のサイズ制限: 5 MB.

5. 選択した壁紙のファイル名がそのフィールドに表示されます。[保存]をクリックして確定します。



6. すべての設定をグローバル、MAC、またはユーザータイプのINIファイルに保存します。

3.8 ファームウェアの自動インストールと更新

以下は、起動時にエンドポイントデバイスのファームウェアを自動的にインストールおよび更新するセットアップについて説明します。手順に従って必要なタスクを完了してください。

ステップ1: ファームウェアファイルをWeb / FTPサーバーに配置する

ステップ2: Webサーバーでのディレクトリ参照の有効化(Webサーバーのみ)

ステップ3: Auto Setupでのロックと設定の保持



注意

* ワイヤレスネットワークを介したファームウェアの自動更新はサポートされていません。



注意

* ここでの手順は、Windows Server 2012 R2(Datacenterエディション)で実装されたWebおよびFTPサーバーに基づいています。OSとエディションが異なるサーバーでは、手順が異なる場合があります。

ステップ1: ファームウェアファイルをWeb / FTPサーバーに配置する

ファームウェアファイルをWeb / FTPサーバーに配置するには、次の手順を実行してください。

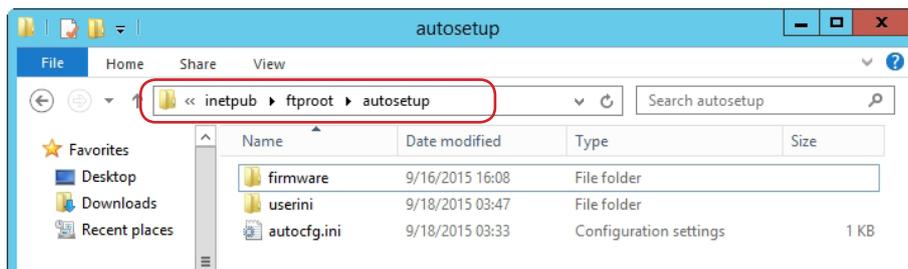
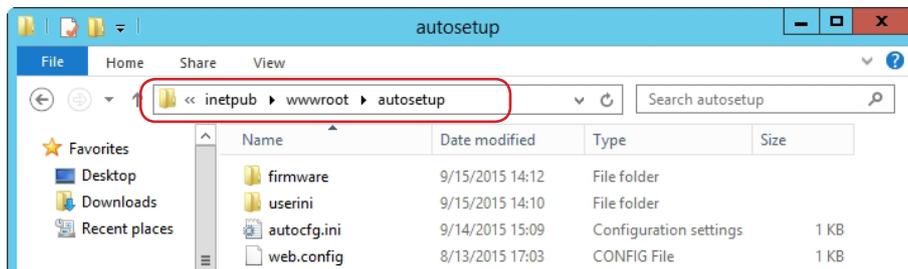
1. 管理者アカウントでWeb / FTPサーバーにログインします。



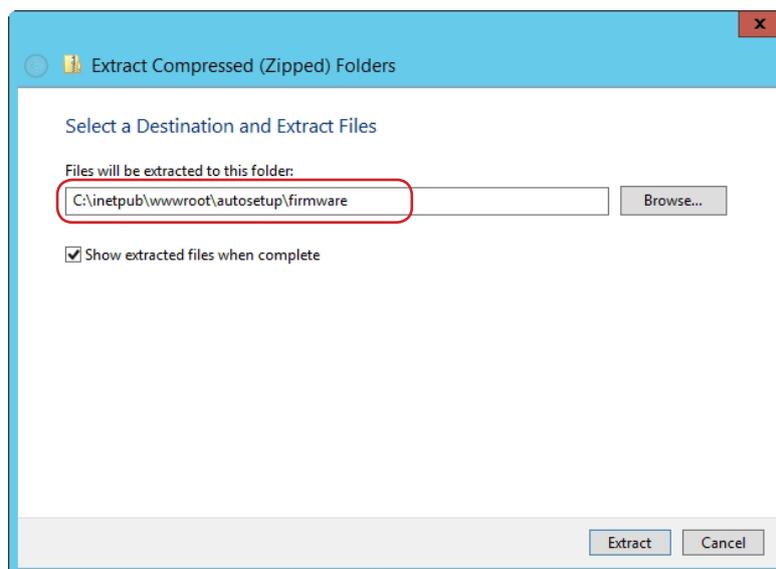
注意

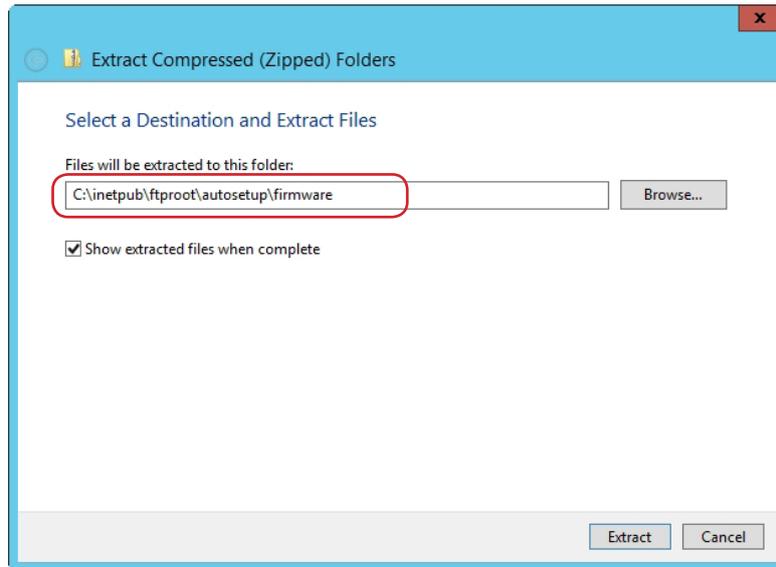
* Web / FTPサーバーは、INIファイルを置くサーバーと同じでなければなりません。

- Windowsエクスプローラーを使用して、INIファイルを配置するディレクトリ(Webサーバーの場合はC:\inetpub\wwwroot、FTPサーバーの場合はC:\inetpub\ftproot)を見つけ、firmwareという名前の新しいフォルダーを作成します。

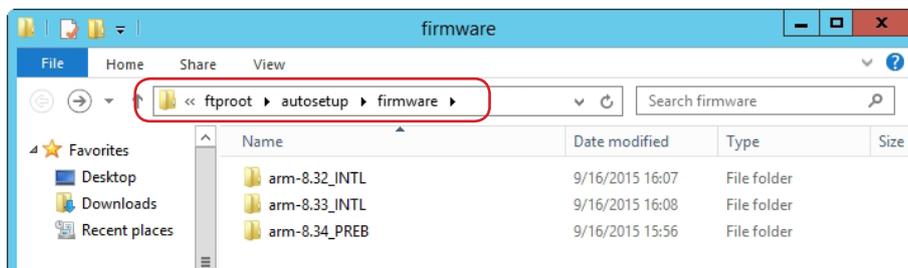
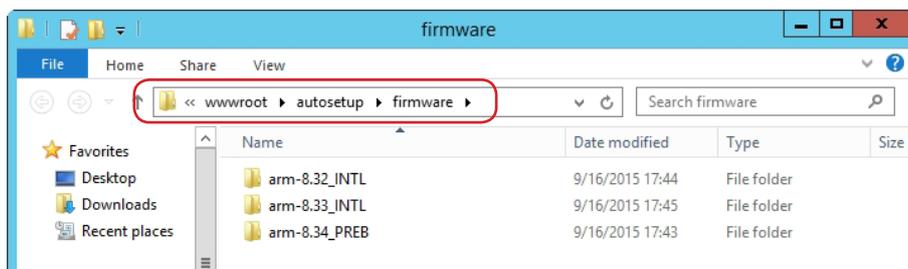


- ファームウェアZIPファイルからファイルを抽出し、宛先として新しく作成されたフォルダー（ファームウェア）を選択します。





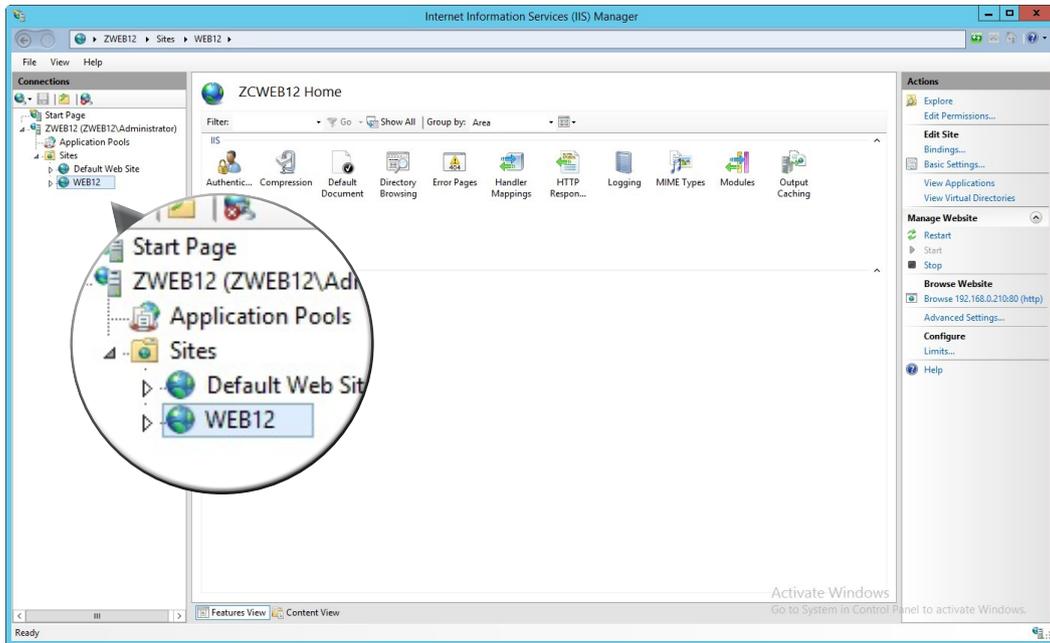
4. 解凍されたすべてのファイルは、フォルダー名としてファームウェアバージョンを持つフォルダーに配置されます。



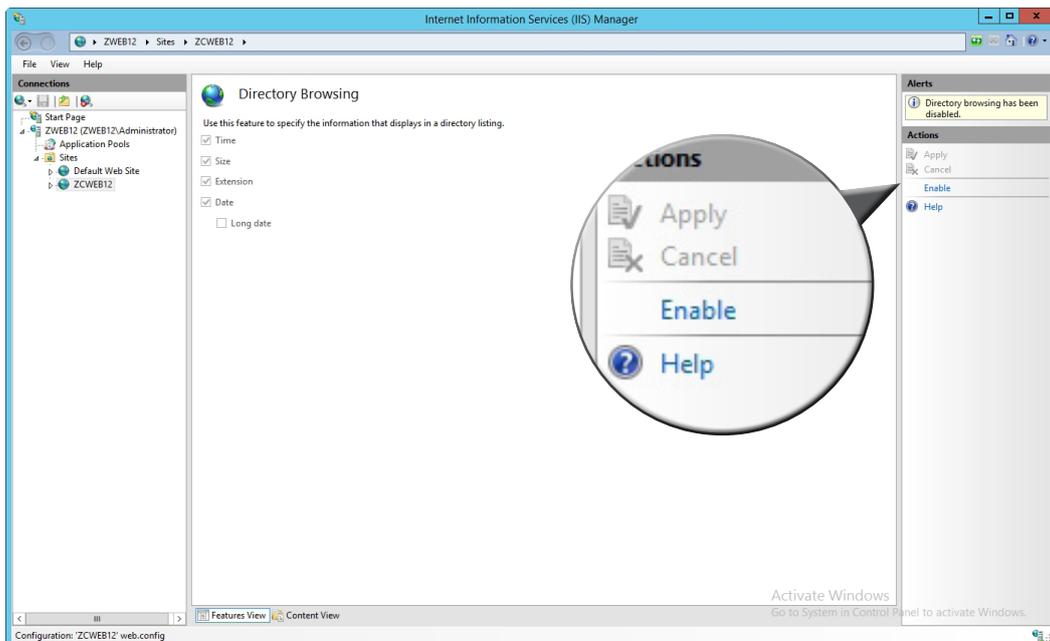
ステップ2: Webサーバーでのディレクトリ参照の有効化(Webサーバーのみ)

Webサーバー上のサブディレクトリアクセスでディレクトリブラウジングを有効にするには、次の手順を実行してください。

1. [スタート]> [管理ツール]> [インターネットインフォメーションサービス(IIS)マネージャー]をクリックして、インターネットインフォメーションサービス(IIS)マネージャーを起動します。
2. [接続]ウィンドウでツリーを展開し、[Auto Setup]モードのWebサイトをクリックして選択します。



3. 中央のペインで[ディレクトリブラウジング] ]をダブルクリックし、右ペインで[有効化]をクリックして、サブディレクトリアクセスを有効にします。



ステップ3: Auto Setupでのロックと設定の保持

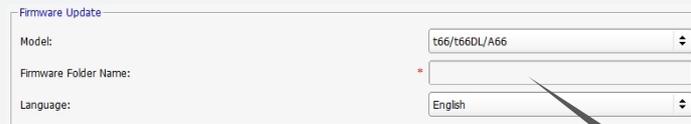
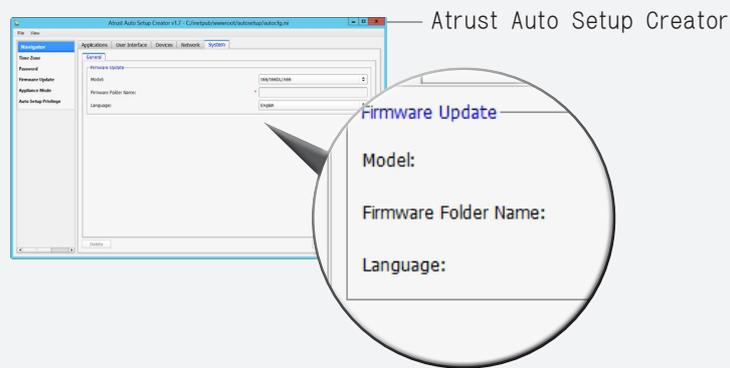
起動時にエンドポイントデバイスのファームウェアを自動的にインストールまたは更新するには、次の手順を実行してください。

1. Atrust Auto Setup Creatorを使用して、適切なINIファイルでファームウェア関連の設定を指定します。

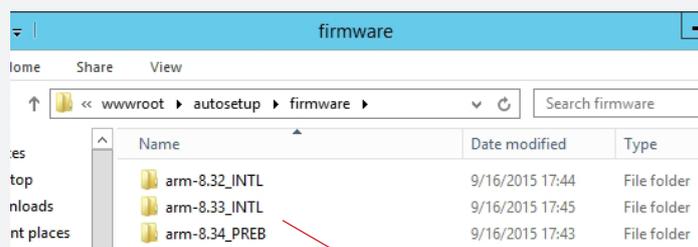


注意

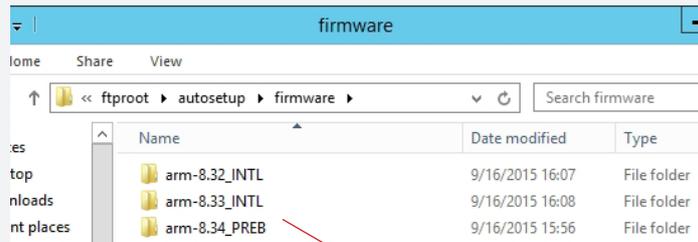
- * Atrust Auto Setup CreatorでINIファイルを生成する方法については、“3.1 INIファイルの生成、表示、保存 (P. 27)”を参照してください。
- * C:\inetpub\wwwroot\autosetup\firmwareの下のファームウェアフォルダー名(Webサーバー)またはC:\inetpub\ftproot\autosetup\firmware(FTPサーバー)は、Atrust Auto Setup Creatorのファームウェアフォルダー名として使用されません。



クリックしてファームウェアフォルダーを見つけ、その名前を取得します(例:arm-8.24_IAAA)



ファームウェアのフォルダー名



ファームウェアのフォルダー名

2. INIファイルをWeb / FTPサーバーに配置します。

**注意**

- * Atrust Client Setupのすべてのクライアント設定をデフォルトに戻すには、“付録C.エンドポイントデバイスのリセット (P. 57)”を参照してデバイスをリセットしてください。

3.9 証明書を自動的に取得する

仮想/リモートデスクトップまたはアプリケーションでは、アクセスに証明書が必要な場合があります。以下は、必要に応じてエンドポイントデバイスに証明書を自動的に提供するセットアップをガイドします。手順に従って必要なタスクを完了してください。

ステップ 1: Web / FTPサーバーに証明書ファイルを置く

ステップ 2: Webサーバーでのディレクトリ参照の有効化(Webサーバーのみ)

**注意**

- * ここでの手順は、Windows Server 2012 R2(Datacenterエディション)で実装されたWebおよびFTPサーバーに基づいています。OSとエディションが異なるサーバーでは、手順が異なる場合があります。

ステップ 1: Web / FTPサーバーに証明書ファイルを置く

証明書ファイルをWeb / FTPサーバーに配置するには、次を実行してください。

**注意**

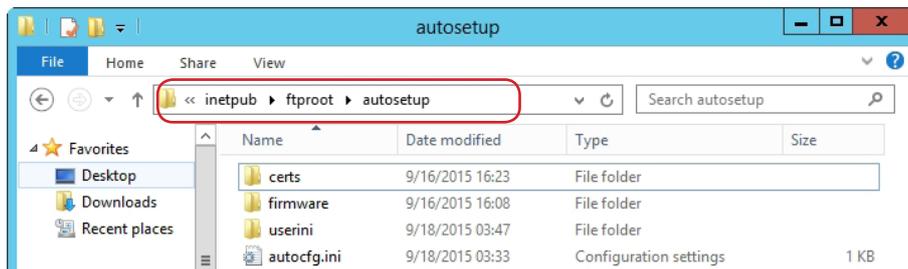
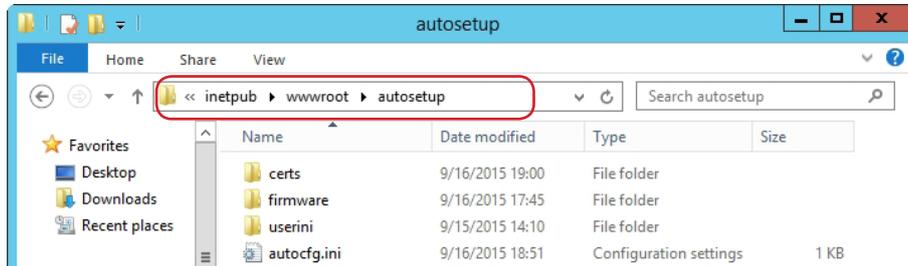
- * PEMおよびDER形式の証明書のみがサポートされています。

1. 管理者アカウントでWeb / FTPサーバーにログインします。

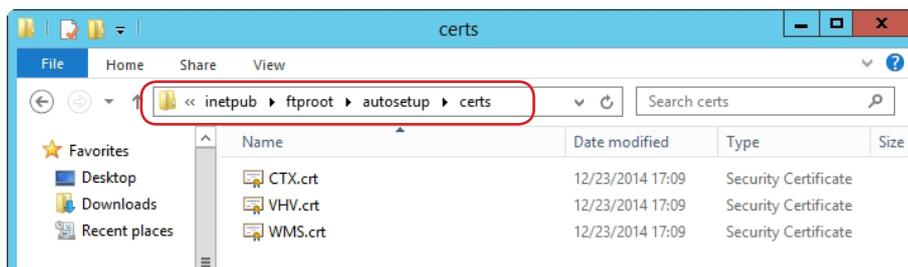
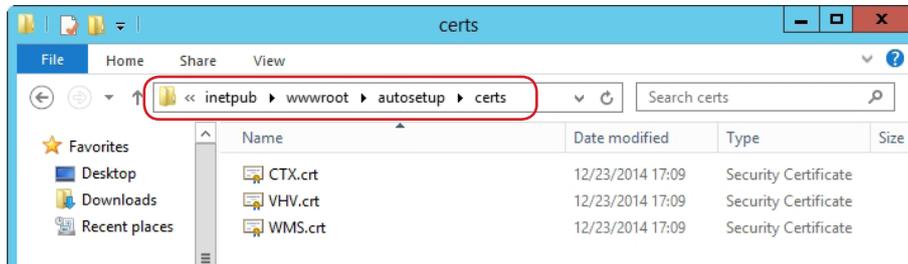
**注意**

- * Web / FTPサーバーは、Auto Setup INIファイルを配置したサーバーと同じでなければなりません。

- Windowsエクスプローラを使用して、INIファイルを配置するディレクトリ(Webサーバーの場合はC:\ inetpub \ wwwroot \ autoseup、FTPサーバーの場合はC:\ inetpub \ ftproot \ autoseup)を見つけて、certsという名前の新しいフォルダーを作成します。



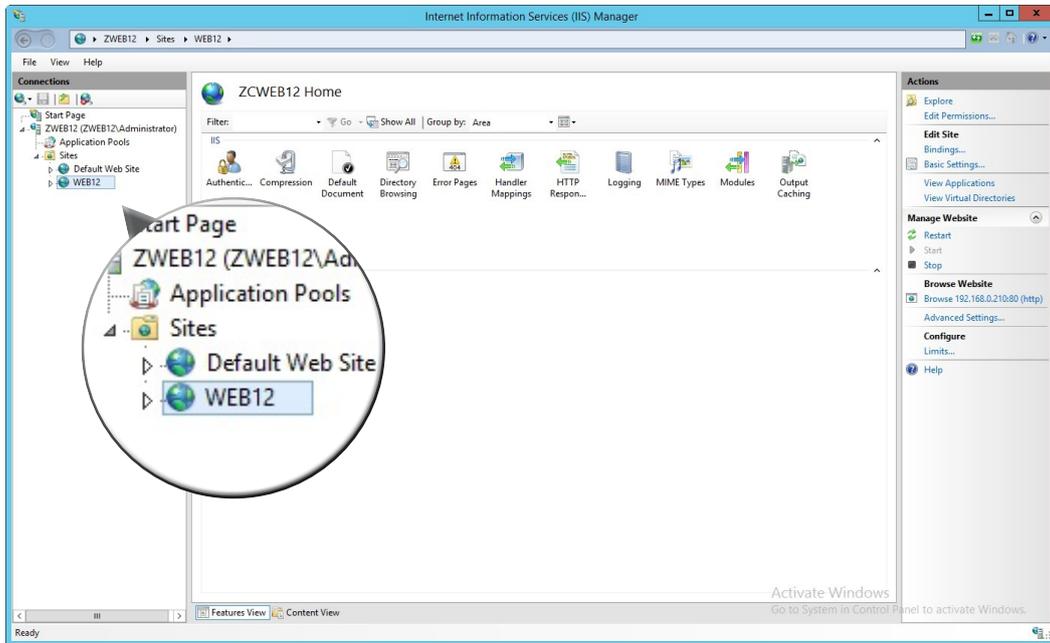
- すべての証明書ファイルを、新しく作成されたフォルダーcertsの下に配置します。



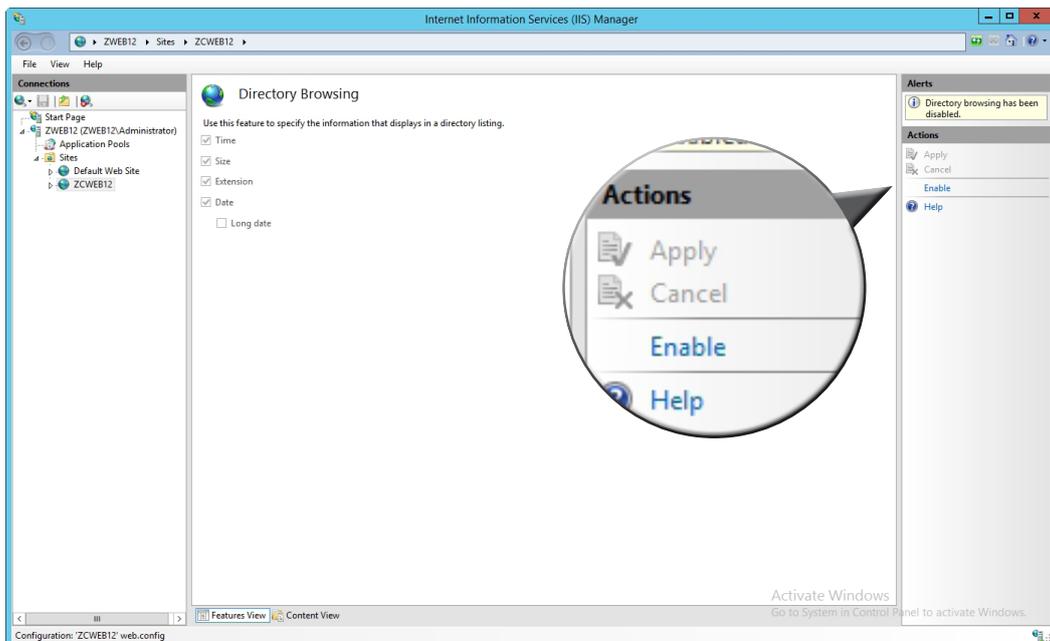
ステップ 2: Webサーバーでのディレクトリ参照の有効化(Webサーバーのみ)

Webサーバー上のサブディレクトリアクセスでディレクトリブラウジングを有効にするには、次の手順を実行してください。

1. [スタート]> [管理ツール]> [インターネットインフォメーションサービス(IIS)マネージャー]をクリックして、インターネットインフォメーションサービス(IIS)マネージャーを起動します。
2. [接続]ウィンドウでツリーを展開し、[Auto Setup]モードのWebサイトをクリックして選択します。



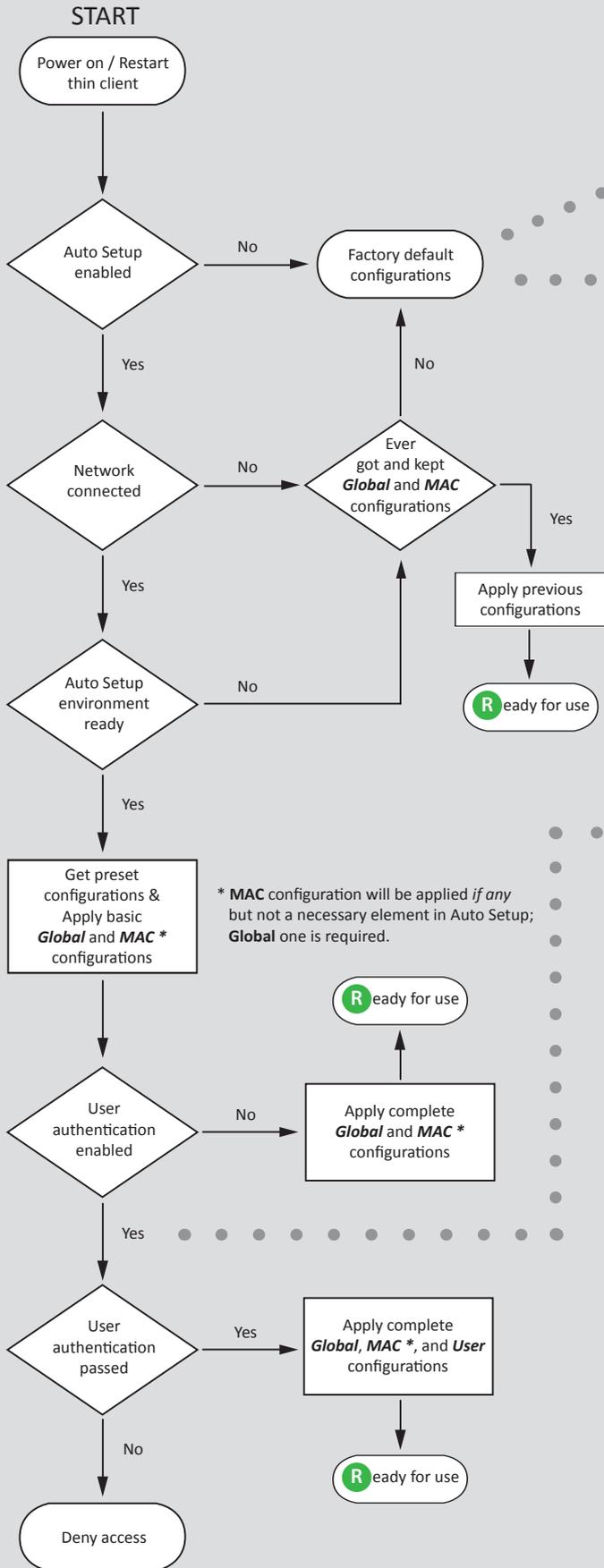
3. 中央のペインで[ディレクトリブラウジング]  をダブルクリックし、右ペインで[有効化]をクリックして、サブディレクトリアクセスを有効にします。



付録A.Auto Setupのフローチャート

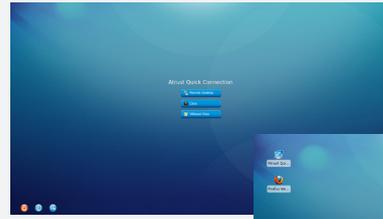
Auto Setupのフローチャートについては、次のページをご覧ください。

フローチャート



スクリーン

ポータブルなシンクライアントは
クイック接続画面



ポータブルシンクライアントは
ローカルデスクトップ



ログオン画面ゲスト対応
ユーザ認証



Enter your Credentials

Username:
Password:

* You can also use 'guest' as the account name to login with any password.

ログオン画面ゲスト無効
ユーザ認証



Enter your Credentials

Username:
Password:

ログオン画面
Active Directory認証



Enter your Credentials

Username:
Password:
Domain:

Auto Setupが有効になっている場合、ユーザー環境はプリセット構成によって異なる場合があります。

Auto Setupの要件

- » Auto Setup対応のエンドポイントデバイス
- » Auto Setupの環境とメカニズム
- » ネットワーク接続
- » 使用するターゲット仮想化サービス

付録B.シングルサインオンの例

以下は、シングルサインオンの構成と使用例であり、提供されたユーザー認証の資格情報を仮想デスクトップまたはアプリケーションに自動的に渡します。

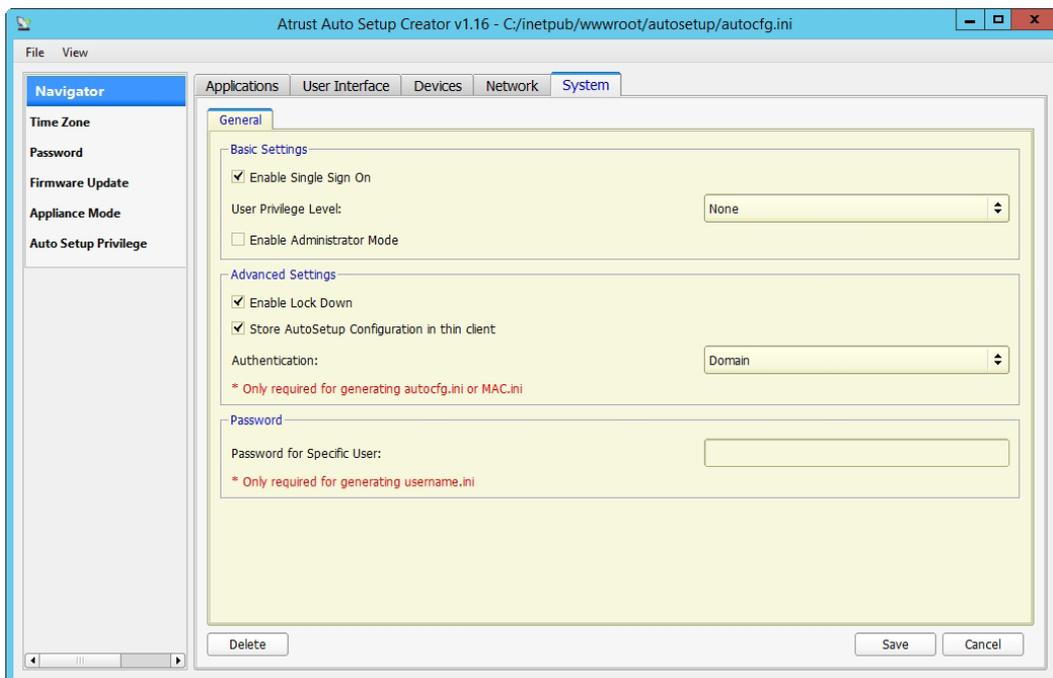
1. 次の設定(システム>Auto Setup特権)でグローバルタイプのINIファイルを作成します。

| 設定項目 | 値/ステータス |
|----------------------------|----------------|
| シングルサインオンを有効にする | Checked |
| ユーザー特権レベル | None |
| 管理者モードを有効化 | Unchecked |
| ロックダウンを有効にする | Checked |
| シンクライアントにAuto Setup構成を保存する | Checked |
| 認証 | Domain |
| 特定のユーザーのパスワード | Leave it blank |



注意

ドメインユーザーのユーザーINIファイルでパスワードを指定する必要はありません。これは、認証方法として[ユーザー]が選択されている場合にのみ必要です。



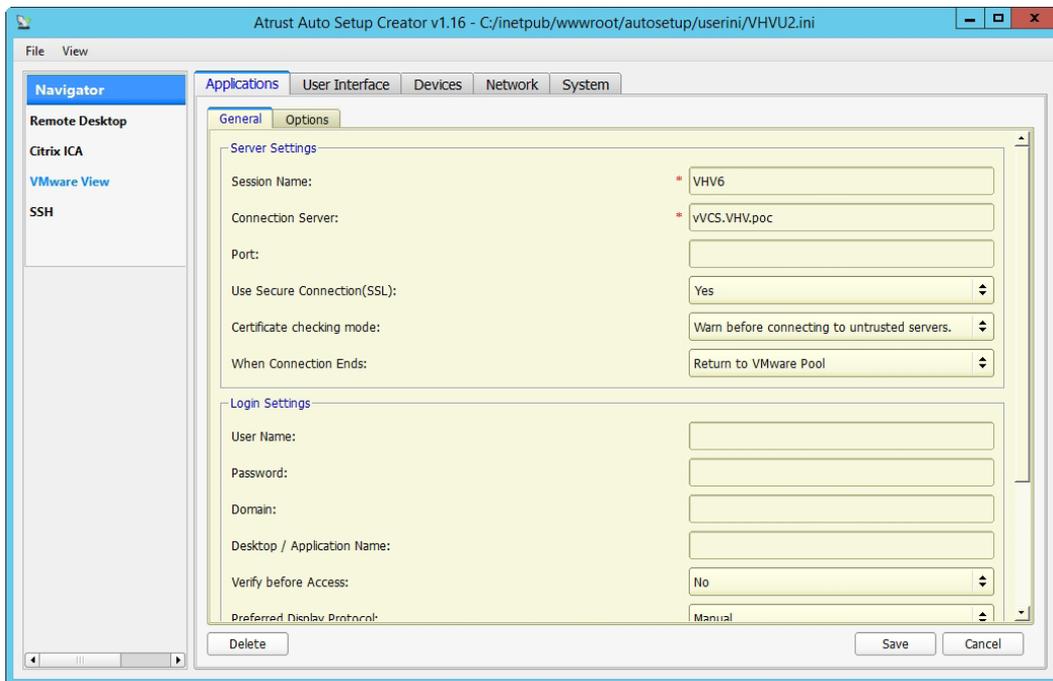
2. autocfg.iniとして必要な場所に保存します。

Webサーバー: C:\inetpub\wwwroot\autosetup

FTPサーバー: C:\inetpub\ftproot\autosetup

3. 次の設定(アプリケーション> VMware View>追加)でユーザータイプのINIファイルを作成します。

| 設定項目 | 値/ステータ |
|--------|-------------------------------------|
| セッション名 | 欲しいものを入力 |
| 接続サーバー | View Connection ServerのIPアドレスを入力します |



4. その他の設定はすべてデフォルトまたは空白のままにして、ドメインユーザーのアカウント名をファイル名として必要な場所に保存します。このドメインユーザーが仮想デスクトップまたはアプリケーションにアクセスする資格を持っていることを確認してください。以下は、ファイル名に関する例です。

| ドメイン | ドメインユーザーアカウント | ユーザーINIのファイル名 |
|---------|---------------|---------------|
| VHV.poc | VHVU2 | VHVU2 |

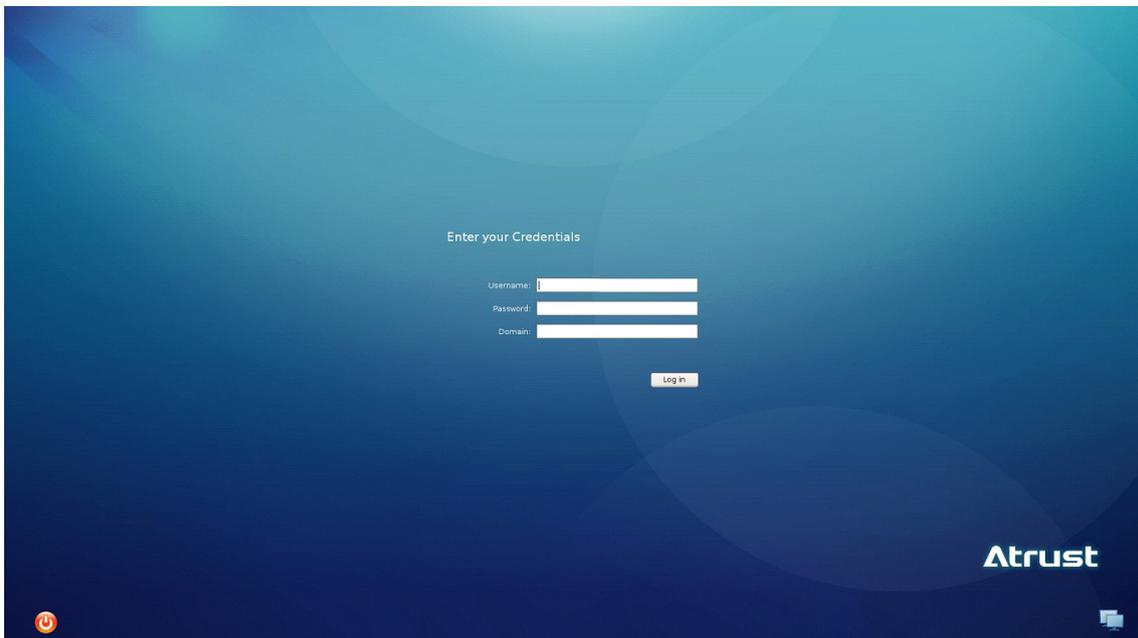
ロケーション:

Webサーバー: C:\inetpub\wwwroot\autosetup

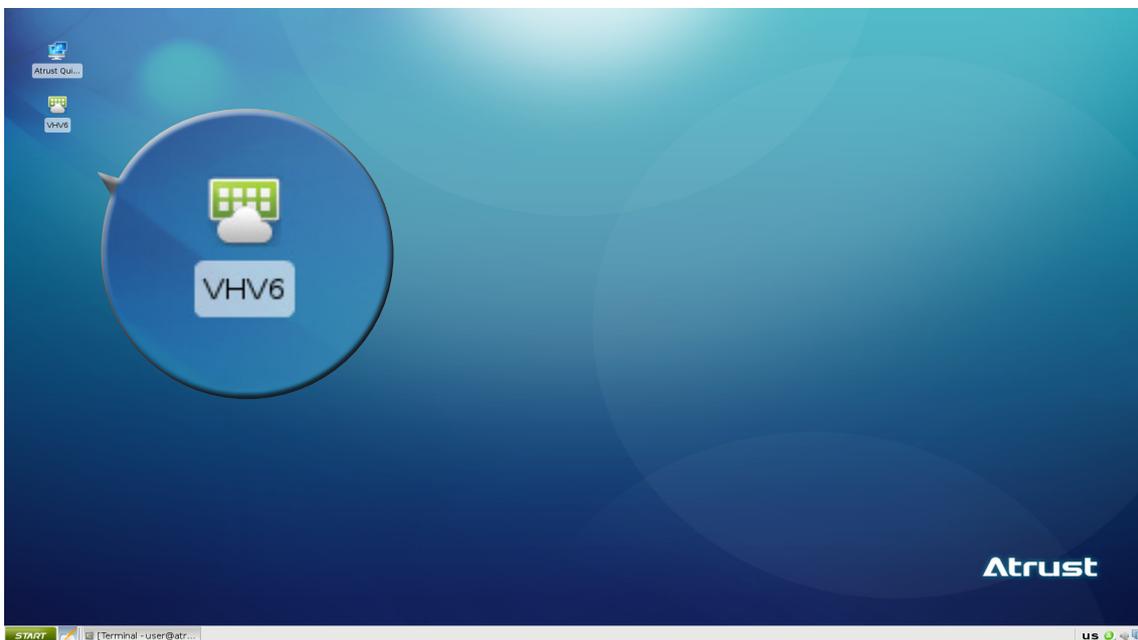
FTPサーバー: C:\inetpub\ftproot\autosetup

5. Auto Setupが有効になっているシンクライアントの電源を入れるか、再起動します。

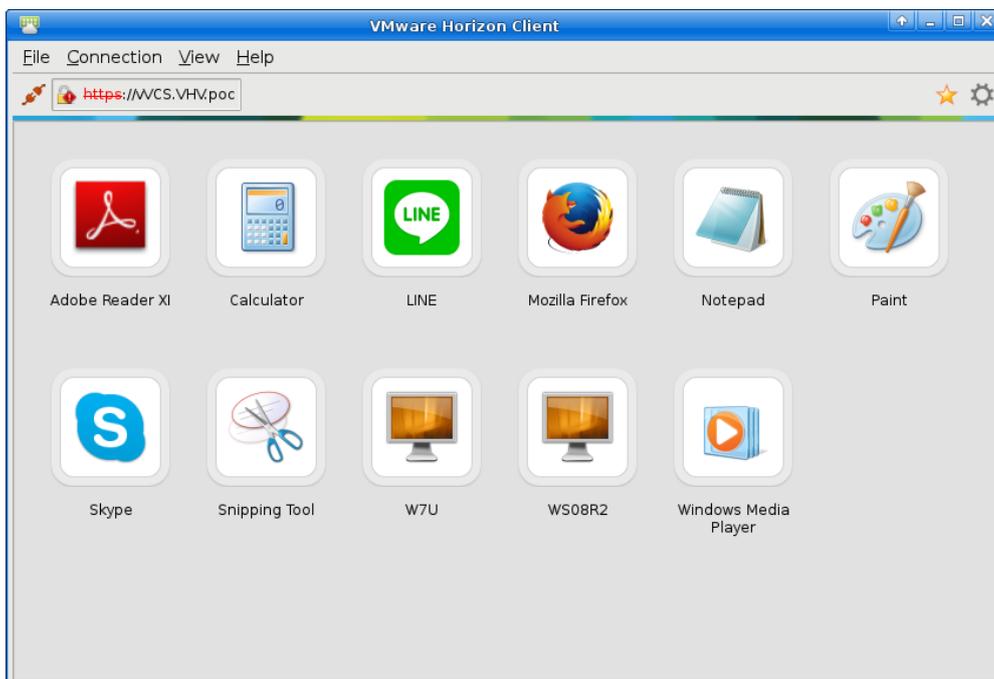
- 資格情報の入力を求める[ユーザー認証]画面が表示されます。ここにドメインユーザーの資格情報を入力し、[ログイン]をクリックします。手順4でINIファイルを構成したドメインユーザーの資格情報を使用してください。



- ローカルデスクトップで、VMware View接続のショートカットをクリックします。



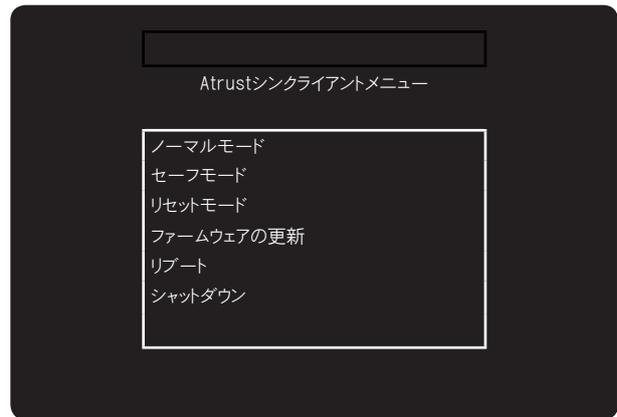
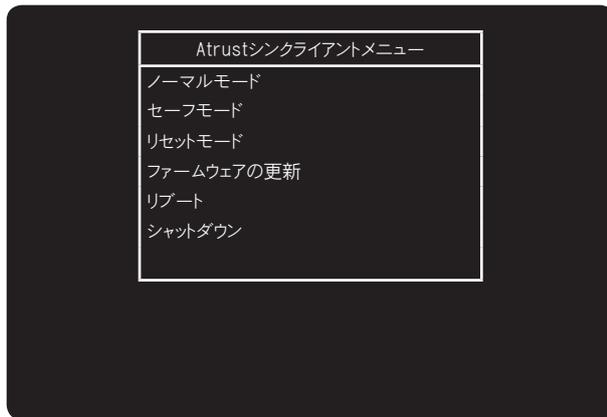
8. 手順6で提供された資格情報が適用されます。ドメインユーザーは、資格のあるすべての仮想デスクトップとアプリケーションにアクセスするために資格情報を再度入力する必要はありません。



付録C.エンドポイントデバイスのリセット

すべてのクライアント設定をデフォルトに戻す必要がある場合は、次の手順に従ってタスクを完了してください。

1. 電源オフ状態(電源LEDがオフ)で、モニターをクライアントに接続し、入力します。モデルに応じて、次のいずれかを使用してそのメニューに入ります。
 - » 電源ボタンを6～8秒長押しして、メニューに入ります。
 - » 電源ボタンを長押ししてメニューに入ります。
 - » Thin Clientの電源を入れ、Escを押してメニューに入ります。



注意

このメニューが画面に表示されるまで、約5秒待つ必要がある場合があります。

Atrust Thin Clientメニューには、通常モード、セーフモード、リセットモード、ファームウェアアップデート、再起動、シャットダウンの6つのオプションがあります。各オプションの説明については、次の表を参照してください。

| メニューオプション | 説明 |
|------------|-----------------------------|
| ノーマルモード | 通常の起動手順としてクライアントを起動します。 |
| セーフモード | 現在の画面解像度設定をクリアしてリセットします。 |
| リセットモード | クライアントを工場出荷時のデフォルトにリセットします。 |
| ファームウェアの更新 | クライアントのファームウェアを更新します。 |
| リポート | クライアントを再起動します。 |
| シャットダウン | クライアントをシャットダウンします。 |

2. キーボードの矢印キーを使用して[リセットモード]を選択し、キーボードのEnterキーを押して続行します。
3. 確認を求めるメッセージが表示されます。キーボードのyをクリックして確認します。
4. 完了したら、キーボードのEnterキーを押してシステムを再起動します。

Atrust